

(様式第10)

獨医大病庶庶発第42号

令和 4年 10月 5日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 獨協学園

理事長 吉田 謙一郎

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号
氏名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880
電話(0282) 86 - 1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科								有
内科と組み合わせた診療科名等								
	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科	
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科	
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input checked="" type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績								

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科		12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	心臓・血管内科	2	血液・腫瘍内科	3	内分泌代謝内科	4	脳神経内科	5	呼吸器・アレルギー科
6	形成外科・美容外科	7	頭頸部・耳鼻咽喉科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
42				1153	1195	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	611	10.7	621.7
歯科医師	23	0.4	23.4
薬剤師	84	1.5	85.5
保健師	0	0	0
助産師	43	3.2	46.2
看護師	979	64.6	1043.6
准看護師	1	1.7	2.7
歯科衛生士	5	0.8	5.8
管理栄養士	11	0	11

職種	員数
看護補助者	76
理学療法士	42
作業療法士	10
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	29
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	73

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	87
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	13	
その他の技術員	49	
事務職員	251	
その他の職員	4	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	38	眼科専門医	11
外科専門医	30	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	12	放射線科専門医	7
小児科専門医	21	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	15
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	9	救急科専門医	18
		合計	213

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (福田 宏嗣 任命年月日 令和 4 年 4 月 1 日

医療安全管理委員会委員
 (令和4年4月1日～令和6年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	910.9 人	12.9 人	923.8 人
1日当たり平均外来患者数	2069.3 人	107.1 人	2176.4 人
1日当たり平均調剤数		1514.1	剤
必要医師数		218	人

必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	31	人
必要(准)看護師数	535	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要					
			病床数	17 床	心電計	有		
集中治療室	1,181 m ²	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有		
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	436	m ²	病床数	34 床		
	[移動式の場合]	台数		台				
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積			54	m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名						
化学検査室	288 m ²		(主な設備)	化学・免疫化学複合自動分析装置、免疫自動分析装置、免疫血清自動分析装置、血液ガス分析装置、凝固・線溶自動分析装置等、フロントエンド分注装置、尿定性自動分析装置 等				
細菌検査室	90 m ²		(主な設備)	真菌感染症検査分析装置、自動菌液分注装置 微生物同定感受性分析装置、血液培養装置				
病理検査室	266 m ²		(主な設備)	自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット 顕微鏡写真撮影装置、密閉式自動固定包埋装置 自動染色装置、感染防止対策用切出し台、 安全キャビネット クリーンベンチ 等				
病理解剖室	80 m ²		(主な設備)	感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置 高圧蒸気滅菌器 等				
研究室	21,154 m ²		(主な設備)	マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム 次世代シーケンサー-Ion Protonシステム 等				
講義室	288 m ²		室数	1	室	収容定員	240	人
図書室	5,894 m ²		室数	1	室	蔵書数	238,764	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	74.9	%	逆紹介率	56.6	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		21,728		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,641		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,270		人
	D: 初診の患者の数		34,697		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
野間 重孝	齊生会宇都宮病院病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所弁護士		法律に関する識見を有する者	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 専務取締役		医療を受ける者の代表者	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1に掲げる者を除く。)
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	有	その他
石田 和之	獨協医科大学 病理診断学 教授		医療に関する学識経験者	有	その他

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページにより公開(https://www.dokkyomed.ac.jp/files/hosp-m/info/02954-006.pdf)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 浸潤性膀胱癌に対する手術。開腹手術に比して、傷が小さく痛みが軽度で、手術後の回復が早い、手術中の出血量が少ない、などの利点がある。			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	160
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対する手術。開腹手術に比して、傷が小さく痛みが軽度で、手術後の回復が早い、手術中の出血量が少ない、などの利点がある。			
医療技術名	重度脊柱変形に対する脊柱骨切り再建術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 先天性側弯症などの重度側弯症に対する前方後方合併脊柱骨切術を併用した矯正固定術を行う			
医療技術名	早期発症側弯症に対するグローイングロッド手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 10歳未満の早期発症重度側弯症に対し、延長可能なロッドシステムを利用した経時的脊柱延長矯正術を行う			
医療技術名	高感度多遺伝子検査システムMINtSによる細胞検体を用いた肺癌遺伝子変異検索	取扱患者数	111
当該医療技術の概要 細胞検体で遺伝子変異を包括的に検査するシステムで、組織を用いる既承認体外診断検査との一致率を比較し検討する			
医療技術名	気管支鏡検査におけるクライオバイオプシー	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 経気管支鏡に先端が凍結する鉗子を挿入し標的組織を採取することで従来の生検鉗子と比較して病理検体のサイズや深さが大きい検体が採取出来るので病理診断率が上がる。			
医療技術名	重症喘息に対する気管支サーモプラスティー	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 高用量吸入ステロイドや気管支拡張薬などの喘息治療薬併用でもコントロール不良な重症喘息患者に対して、気管支鏡下に高周波プローブを気管支内腔に挿入し温熱処置を加えることで気管支平滑筋量を減少させる治療法である。喘息発作の減少やQOLの改善などの効果が得られる。			
医療技術名	小耳症・外耳道閉鎖症における、耳介挙上と外耳道・鼓室形成による聴力改善手術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 肋軟骨フレームワーク移植で作製した耳介を挙上する際に、外耳道の造設、耳小骨、鼓膜の再建を形成外科と耳鼻科が合同で行う。			
医療技術名	神経血管柄付き遊離筋肉移植による、顔面神経麻痺の動的再建手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 マイクロサージャリー手技を用いた、遊離筋肉移植(主に広背筋)により、陳旧性顔面神経麻痺患者に「笑いの表情」を再建する。			
医療技術名	拡大前頭洞手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 通常の内視鏡手術では開放困難な前頭洞病変に対して用いられる手術手技である。			
医療技術名	下咽頭悪性腫瘍手術(頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 進行下咽頭癌に対して行われる耳鼻咽喉科を代表する大手術である。			

医療技術名	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 下咽頭に表在癌に対して消化器内科と合同で施行する上部消化管内視鏡化の切除術である。			
医療技術名	胃静脈瘤に対するコイルを用いた超音波内視鏡的血管塞栓術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 胃静脈瘤に対する治療として、超音波内視鏡下に胃静脈瘤を穿刺し、コイル留置ならびに硬化剤注入を行い、胃静脈瘤を塞栓する先進的な治療法である、当施設のみで行える高難度な手技であるが、安全かつ効果的な治療法として提供できている。			
医療技術名	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 低肺機能や高齢などの理由により経胸的食道切除が困難な食道癌患者に対して、頸部および食道裂孔からの気縦隔操作によって十分な視野を確保しつつ縦隔郭清を伴う食道切除を行う術式である。			
医療技術名	ダ・ヴィンチ®Xi手術システムを用いたロボット支援下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 食道癌に対してロボット支援下に手術を行うことで精緻な食道切除およびリンパ節郭清が可能である。従来の胸腔鏡下食道切除術に比較して反回神経に対して愛護的な操作ができるため、嘔声、誤嚥性肺炎の発生予防に寄与するものである。			
医療技術名	食道癌に対するドセタキセル、シスプラチン、フルオロウラシル(DCF)併用放射線療法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 進行食道扁平上皮癌に対して標準とされているシスプラチン、フルオロウラシル(CF)併用放射線療法にドセタキセルを加えることで高い抗腫瘍効果を発揮する。有害事象も多いため、放射線治療計画を含めた専門施設での適切なマネジメントが必要である。			
医療技術名	進行胃癌に対するDOS併用化学療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 高度リンパ節転移を有する進行胃癌に対して、術前化学療法Docetaxel, Oxaliplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、生存率を延長することが期待できる。			
医療技術名	ダ・ヴィンチ®Xi手術システムを用いた、ロボット支援腹腔鏡下胃癌手術	取扱患者数	33
当該医療技術の概要 3D立体画像下で複雑かつ細かな手技が可能で、多関節機能を有し、手ぶれがないため、より安全かつ低侵襲な手術が行うことが可能となる。			
医療技術名	腹腔鏡下胃スリーブ状切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 BMI35以上の高度肥満症例に対する腹腔鏡下胃スリーブ状切除術は、術前から内分泌内科、麻酔科、精神科、リハビリ科、栄養科などの他職種との連携が必要であり、内臓脂肪も多いことから手技的にも難易度が高い。			
医療技術名	術前化学療法後の大動脈周囲リンパ節郭清術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 大動脈周囲リンパ節転移のある症例に術前化学療法を施行し、その後大動脈周囲リンパ節の系統的郭清を行う。大動脈周囲リンパ節郭清は、難易度も高いが、根治も期待できる。			
医療技術名	局所進行直腸癌に対する術前治療としての短期放射線療法と化学療法の併用療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 局所進行直腸癌手術は、術後の機能障害や局所再発を来しやすく予後不良であることが問題点である。そのため、局所再発抑制目的に術前化学放射線療法が注目されている。本治療は、短期の放射線治療と抗癌剤治療を併用することで局所再発率の低下および確実な機能温存を行うための治療法である。			
医療技術名	直腸腫瘍に対する内視鏡手術支援ロボット(da Vinci)を用いた腹腔鏡下直腸切除・切断術	取扱患者数	34
当該医療技術の概要 ロボット支援下手術は、多関節を有する手術器具、手ぶれ防止機構や motion scaling による精緻な動作が可能となり従来の腹腔鏡手術での操作困難性などの短所を補うことができる。特に直腸腫瘍手術の際は、狭い骨盤腔内で精密な手術操作を行うことに適している。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 原発性肝癌、転移性肝癌が対象である。術式は肝部分切除、肝外側区域切除、肝垂区域切除、肝左葉(左肝)切除までとしている。			

医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 低悪性度腓腫瘍(郭清なし)とT1腓癌(郭清あり)を対象としている。			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 末期肝不全患者を対象とし、保険診療の範囲内で治療を行っている。背景疾患はウイルス性肝炎、肝細胞癌、自己免疫性疾患、急性肝障害(劇症肝炎)などである。			
医療技術名	脳死腓腎移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 1型糖尿病患者を対象とし、脳死ドナーから腓および片腎を採取、レシピエントの骨盤腔内に腓を、左後腹膜腔に腎を移植する。			
医療技術名	体重1000g未満の超低出生体重児の消化管手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 体重が1000gに満たない超低出生体重児の消化管閉塞症状や消化管穿孔に対する手術。麻酔管理、術後NICU管理を含めて繊細で高度な技術が必要である。			
医療技術名	腹腔鏡補助下鎖肛根治術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 乳児の高位鎖肛手術は従来腹会陰式であったが、開腹創を小さくする腹腔鏡操作を併用した手術であり、高度な技術が必要である。			
医療技術名	腹腔鏡補助下Hirschsprung病根治術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腹腔鏡補助下Hirschsprung病根治術は、開腹に代わり腹腔鏡下で切除腸管の腸間膜処理や腹膜翻転部の剥離を行う高難度手術である。			
医療技術名	脳死肺移植	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 脳死ドナーより摘出・搬送した肺を登録してある慢性呼吸不全症例に移植したもの			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	53
当該医療技術の概要 経カテーテル大動脈弁留置術(Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI)は、重症の大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的に生体弁を大動脈弁に留置する治療法であり、開胸術がハイリスクな症例に対して新たな治療の選択肢となっている。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip TM 」	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip TM 」(以下、マイトラクリップ)は、低侵襲性の経皮的僧帽弁接合不全修復システムを用いた重症僧帽弁閉鎖不全症に対する治療法である。マイトラクリップにより開胸術がハイリスクである重症僧帽弁閉鎖不全症の新たな治療の選択肢となっている。			
医療技術名	経皮的卵円孔改善閉鎖術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 奇異性脳塞栓症の原因となる卵円孔開存に対する新たな低侵襲治療として経皮的卵円孔閉鎖術が開始され、奇異性脳塞栓の再発予防効果が期待できます。			
医療技術名	リードレスペースメーカー	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 リードレスペースメーカーは、経カテーテル的に右心室に直接小型のペースメーカーを留置する方法である。経静脈ペースメーカー植え込み術における、リード、あるいは皮下ポケット関連の合併症を克服している。			
医療技術名	植え込み型除細動器(Implantable Cardioverter Defibrillator: ICD)	取扱患者数	27
当該医療技術の概要 ICDは、心疾患の種類にかかわらず致死の頻脈性不整脈による心臓突然死を予防し生命予後を改善する、もともと有効かつ確立された治療法の1つである。最近では皮下植え込み型除細動器(S-ICD)や着用型自動除細動器(WCD)も登場してライフスタイルに合わせた治療の選択肢が広がっている。			

医療技術名	心臓再同期療法(Cardiac Resynchronization Therapy: CRT, CRT-D)	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
心臓の伝導障害により、房室間、心室内、あるいは心室間同期不全が心不全の一因として存在する場合、心臓再同期療法は同期不全を解消し、心不全悪化を防止あるいは心機能を向上させ、自覚症状や予後の改善をもたらす治療法である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	92
当該医療技術の概要			
光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待できる。			
医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。			
医療技術名	血管内超音波法(Intravascular Ultrasound: IVUS)を用いた冠動脈形成術	取扱患者数	473
当該医療技術の概要			
現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了決定に必須なモダリティである。特に我々の使用する近赤外分光法-血管内超音波検査(NIRS-IVUS)は冠動脈形成術後の予後予測に有用である。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(Impella)を用いた心源性ショック治療	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
Impellaは経皮的に左室内に留置可能なポンプカテーテルであり、補助人工心臓と同等の機能を持つ。心負荷軽減と心筋循環改善による心機能改善効果が期待され、短期間であるが経皮的に導入可能であるためショック時の対応が迅速かつ低侵襲に装着可能である。			
医療技術名	小児食物アレルギー負荷検査	取扱患者数	300
当該医療技術の概要			
食物アレルギーの診断に有用な検査法である			
医療技術名	重症気管支喘息の生物学的製剤導入	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
重症気管支喘息に対する治療			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎の生物学的製剤の導入	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
重症アトピー性皮膚炎治療に対する治療			
医療技術名	炎症性腸疾患の生物学的製剤の導入	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
重症炎症性腸疾患に対する治療			
医療技術名	高安動脈炎に対する生物学的製剤の導入	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
重症高安動脈炎に対する治療			
医療技術名	在宅経肛門的自己洗腸指導管理科	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
先天性二分脊椎症の排便管理のため、有用な手技治療法である			
医療技術名	新生児仮死に対する低体温療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
重度の新生児仮死児に対して冷却器で体温を34℃に下げ、3日間管理する。			

医療技術名	新生児遷延性肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
新生児遷延性肺高血圧に対してレスピレーターから一酸化窒素を持続吸入する。			
医療技術名	生物学的製剤の導入	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
若年性特発性関節炎患者に対して生物学的製剤による治療			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	48
取扱い患者数の合計(人)	1569

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	黄色靱帯骨化症	6
2	筋萎縮性側索硬化症	32	57	後縦靱帯骨化症	62
3	脊髄性筋萎縮症	7	58	広範脊柱管狭窄症	4
4	進行性核上性麻痺	31	59	特発性大腿骨頭壊死症	33
5	パーキンソン病	329	60	下垂体性ADH分泌異常症	14
6	大脳皮質基底核変性症	10	61	下垂体性TSH分泌亢進症	2
7	ハンチントン病	7	62	下垂体性PRL分泌亢進症	10
8	シャルコー・マリー・トゥース病	10	63	クッシング病	5
9	重症筋無力症	118	64	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	31
10	先天性筋無力症候群	1	65	下垂体前葉機能低下症	105
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	85	66	甲状腺ホルモン不応症	1
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	25	67	先天性副腎皮質酵素欠損症	6
13	封入体筋炎	3	68	アジソン病	3
14	クロー・深瀬症候群	1	69	サルコイドーシス	127
15	多系統萎縮症	46	70	特発性間質性肺炎	82
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	69	71	肺動脈性肺高血圧症	33
17	ライソゾーム病	8	72	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	31
18	ミトコンドリア病	3	73	リンパ管筋腫症	5
19	もやもや病	28	74	網膜色素変性症	35
20	亜急性硬化性全脳炎	2	75	特発性門脈圧亢進症	1
21	特発性基底核石灰化症	1	76	原発性胆汁性肝硬変	18
22	全身性アミロイドーシス	8	77	原発性硬化性胆管炎	1
23	遠位型ミオパチー	2	78	自己免疫性肝炎	10
24	神経線維腫症	27	79	クローン病	178
25	天疱瘡	21	80	潰瘍性大腸炎	413
26	表皮水疱症	1	81	好酸球性消化管疾患	21
27	膿疱性乾癬(汎発型)	9	82	先天性ミオパチー	6
28	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	83	マリネスコ・シェーグレン症候群	1
29	中毒性表皮壊死症	1	84	筋ジストロフィー	23
30	高安動脈炎	34	85	遺伝性周期性四肢麻痺	1
31	巨細胞性動脈炎	21	86	脊髄空洞症	7
32	結節性多発動脈炎	7	87	脊髄髄膜瘤	2
33	顕微鏡的多発血管炎	57	88	脳表ヘモジデリン沈着症	1
34	多発血管炎性肉芽腫症	14	89	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	1
35	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	23	90	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
36	悪性関節リウマチ	5	91	前頭側頭葉変性症	2
37	バージャー病	3	92	先天性無痛無汗症	1
38	原発性抗リン脂質抗体症候群	9	93	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1
39	全身性エリテマトーデス	322	94	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
40	皮膚筋炎／多発性筋炎	148	95	レノックス・ガストー症候群	2
41	全身性強皮症	166	96	ウエスト症候群	1
42	混合性結合組織病	53	97	結節性硬化症	3
43	シェーグレン症候群	161	98	家族性良性慢性天疱瘡	1
44	成人スチル病	22	99	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	28
45	再発性多発軟骨炎	5	100	特発性後天性全身性無汗症	12
46	ベーチェット病	99	101	マルファン症候群	4
47	特発性拡張型心筋症	97	102	ウィルソン病	4
48	肥大型心筋症	12	103	無脾症候群	1
49	再生不良性貧血	43	104	ブラダー・ウィリ症候群	1
50	自己免疫性溶血性貧血	7	105	総動脈幹遺残症	1
51	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	106	完全大血管転位症	1
52	特発性血小板減少性紫斑病	70	107	アルポート症候群	1
53	原発性免疫不全症候群	8	108	急速進行性糸球体腎炎	7
54	IgA腎症	24	109	一次性ネフローゼ症候群	36
55	多発性嚢胞腎	35	110	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	紫斑病性腎炎	2	167		
112	間質性膀胱炎(ハンナ型)	13	168		
113	オスラー病	1	169		
114	閉塞性細気管支炎	2	170		
115	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2	171		
116	副甲状腺機能低下症	2	172		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

117	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	173	
118	シトステロール血症	2	174	
119	家族性地中海熱	1	175	
120	強直性脊椎炎	6	176	
121	骨形成不全症	1	177	
122	リンパ管腫症/ゴーム病	1	178	
123	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1	179	
124	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	1	180	
125	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1	181	
126	後天性赤芽球癆	3	182	
127	エプスタイン症候群	2	183	
128	クローンカイト・カナダ症候群	1	184	
129	胆道閉鎖症	1	185	
130	遺伝性膝炎	3	186	
131	嚢胞性線維症	1	187	
132	IgG4関連疾患	19	188	
133	黄斑ジストロフィー	2	189	
134	好酸球性副鼻腔炎	255	190	
135	先天異常症候群	1	191	
136	無虹彩症	1	192	
137	脳クリアチン欠乏症候群	5	193	
138			194	
139			195	
140			196	
141			197	
142			198	
143			199	
144			200	
145			201	
146			202	
147			203	
148			204	
149			205	
150			206	
151			207	
152			208	
153			209	
154			210	
155			211	
156			212	
157			213	
158			214	
159			215	
160			216	
161			217	
162			218	
163			219	
164			220	
165			221	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	137
合計患者数(人)	4060

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1入院基本料) (精神病棟 13対1入院基本料)・入院栄養管理体制加算	データ提出加算 (データ提出加算2のイ)
・救急医療管理加算	入退院支援加算 (入退院支援加算1のイ) ・入院時支援加算
・超急性期脳卒中加算	認知症ケア加算1
・診療録管理体制加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1(30対1補助体制加算)	精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算(25対1補助体制加算)(看護補助者5割以上)夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 ・看護補助体制充実加算	精神科急性期医師配置加算
・看護職員夜間配置加算(看護職員夜間12対1配置加算1)	排尿自立支援加算
・療養環境加算	地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料3 ・救急体制充実加算1
・無菌治療室管理加算1	救命救急入院料4 ・救急体制充実加算1
・無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料3 ・小児加算・早期離床リハビリテーション加算
・緩和ケア診療加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)(新生児集中治療室管理料)
・精神科リエゾンチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	小児入院医療管理料1・プレイルーム加算・養育支援体制加算 ・無菌治療管理加算
・栄養サポートチーム加算	地域歯科診療支援病院歯科初診料
・医療安全対策加算1	歯科外来診療環境体制加算2
・感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算 抗菌薬適正使用支援加算	歯科診療特別対応連携加算
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算2	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・医療機器安全管理料1
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・医療機器安全管理料2
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・がん患者指導管理料イ	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・がん患者指導管理料ロ	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん患者指導管理料ハ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・外来緩和ケア管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・小児運動器疾患指導管理料	・骨髄微小残存病変測定
・婦人科特定疾患治療管理料	・BRCA1/2遺伝子検査・腫瘍細胞を検体とするもの・血液を検体とするもの
・外来腫瘍化学療法診療料1 連携充実加算	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来放射線照射診療料	・遺伝学的検査
・腎代替療法指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・ニコチン依存症管理料	・精密触覚機能検査
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ウイルス 細菌核酸多項目同時検出
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん治療連携計画策定料	・検体検査管理加算(I)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・検体検査管理加算(IV)
・外来排尿自立指導料	・国際標準検査管理加算
・薬剤管理指導料	・画像診断管理加算1
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・病理診断管理加算2	外来化学療法加算1
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・対外照射呼吸性移動対策加算
・遺伝カウンセリング加算	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下支援加算2

・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料
・胎児心エコー法	・集団コミュニケーション療法料
・ヘッドアップティルト試験	・経頭蓋磁気刺激療法
・長期継続頭蓋内脳波検査	・救急患者精神科継続支援料
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・認知療法・認知行動療法1
・脳波検査判断料1	・手術用顕微鏡加算
・単線維筋電図	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・神経学的検査	・医療保護入院等診療料
・補聴器適合検査	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・全視野精密網膜電図	・歯根端切除手術の注3
・ロービジョン検査判断料	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・コンタクトレンズ検査料1	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・小児食物アレルギー負荷検査	・人工腎臓
・内服・点滴誘発試験	・導入期加算1
・ポジトロン断層撮影	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・冠動脈CT撮影加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・CT撮影及びMRI撮影	・心不全に対する遠赤外線温熱療法
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・歯周組織再生誘導手術
・無菌製剤処理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・磁気による膀胱等刺激法
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・歯科麻酔管理料
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・センチネルリンパ節加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・皮膚移植術(死体)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用い
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・同種死体肺移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体部分肺移植術

・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)等
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下弁形成術
・羊膜移植術	・経カテーテル大動脈弁置換術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・胸腔鏡下弁置換術
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的中心隔心筋焼灼術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・乳腺悪性腫瘍手術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・補助人工心臓
・生体腎移植術	・定位放射線治療
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・CAD/CAM冠
・人工尿道括約筋植込・置換術	・歯科矯正診断料
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)① 単純切除術② 悪性腫瘍切除術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)① 単純切除術② 悪性腫瘍切除術	・手術の通則の第19号に掲げる手術(子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行う手術))
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・輸血管理料Ⅱ
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)① 単純全摘術② 悪性腫瘍手術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・体外衝撃波胆石破砕術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高齢心不全患者に和温療法を用いた認知機能・筋力改善効果と分子的機序の解明	豊田 茂	内科学(心臓・血管/循環器)	100,000	補委 日本学術振興会
閉経期女性冠動脈疾患患者のエコール摂取の有用性	阿部 七郎	内科学(心臓・血管/循環器)	300,000	補委 日本学術振興会
RUNX1-EVI1型白血病の分子病態の解明と分子標的療法の開発	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	700,000	補委 日本学術振興会
造血器腫瘍治療における細胞内シグナル修飾と免疫賦活化の両面からの難治性の克服	今井 陽一	内科学(血液・腫瘍)	1,400,000	補委 日本学術振興会
白色脂肪の褐色化と糖代謝制御におけるMAIT細胞の役割に関する研究	薄井 勲	内科学(内分泌代謝)	1,000,000	補委 日本学術振興会
糖尿病性心筋障害に対する糖尿病治療薬の影響に関する基礎的検討	城島 輝雄	内科学(内分泌代謝)	800,000	補委 日本学術振興会
新たな2型糖尿病腎線維化モデルの開発および解析から迫る糖尿病腎症病態	水沼 有威子	内科学(内分泌代謝)	900,000	補委 日本学術振興会
共培養モデルにおける肺線維症の病態解明とプラズマローゲンによる治療可能性の検討	中村 祐介	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,000,000	補委 日本学術振興会
自己免疫性筋炎に合併する重症間質性肺炎の新規治療法の開発戦略	倉沢 和宏	内科学(リウマチ・膠原病)	1,100,000	補委 日本学術振興会
腸管神経系と免疫系の相互作用による関節リウマチの病態制御機構の解明と新規治療開発	前澤 玲華	内科学(リウマチ・膠原病)	900,000	補委 日本学術振興会
24時間持続血糖を用いた統合失調症患者の予後改善の試み	古郡 規雄	精神神経医学	1,200,000	補委 日本学術振興会
心拍変動・瞬時心拍変動に着目した向精神薬による精神疾患患者の突然死予防戦略	岡安 寛明	精神神経医学	900,000	補委 日本学術振興会
CYP遺伝子多型に焦点をあてたベンラファキシンの薬物動態解析	佐々木 はづき	精神神経医学	900,000	補委 日本学術振興会
女性の評価にもとづく男性周産期うつ病の新規スクリーニングシステムの開発	徳満 敬大	精神神経医学	1,200,000	補委 日本学術振興会
統合失調症罹患者におけるフレイルの実態と発症要因に関する研究	藤平 明広	精神神経医学	1,000,000	補委 日本学術振興会
ガドリニウム刺激による皮膚線維芽細胞のリプログラミングの可能性	林 周次郎	皮膚科学	800,000	補委 日本学術振興会
乾癬におけるMAIT細胞の機能解析	石井 英輔	皮膚科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
家族性発症する甲状腺腫の遺伝学的要因の解析	小飼 貴彦	感染制御・臨床検査医学	1,500,000	補委 日本学術振興会
肺高血圧症ラットモデルにおけるQQ細胞の移植効果	関根 佳織	小児科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
自動問診AIの利用を前提とした診断精度を最大化する診断思考理論の開発	原田 侑典	総合診療医学	1,100,000	補委 日本学術振興会
胆道閉鎖症特異的iPS細胞を用いた胆管発生およびその障害メカニズムの解明	鈴木 完	第一外科学	1,000,000	補委 日本学術振興会
非培養自己ヒト皮下脂肪組織由来再生幹細胞を用いた便失禁治療の開発	石塚 満	第二外科学	800,000	補委 日本学術振興会
大腸癌における癌関連線維芽細胞に基づく抗がん剤治療効果予測システムの開発	清水 崇行	第二外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
加速度トレーニングによる心不全患者の運動耐容能と血管内皮機能向上に関する研究	斎藤 俊輔	心臓・血管外科学	1,300,000	補委 日本学術振興会
HMG-CoA還元酵素を標的とした胸腺癌に対する新たな治療戦略の構築	千田 雅之	呼吸器外科学	1,000,000	補委 日本学術振興会
呼吸器内視鏡を中核とする次世代肺がん外科へのプレジジョン診断の確立	中島 崇裕	呼吸器外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ヒト下垂体腺腫細胞株の樹立と難治性下垂体腺腫に対する血管新生抑制療法の確立	阿久津 博義	脳神経外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
腎細胞癌におけるエネルギー代謝異常とがん免疫回避機構の分子細胞学的な解析	釜井 隆男	泌尿器科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
酸化・窒素化ストレスによる嗅粘膜障害-気道リモデリングの嗅粘膜分泌異常の解明-	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,200,000	補委	日本学術振興会
体外灌流法を用いた遊離皮弁モデルと無細胞真皮マトリックスを用いた人工脂肪弁の開発	飯田 拓也	形成外科学	1,200,000	補委	日本学術振興会
バイアスアゴニズムを利用したオピオイドの副作用及び耐性回復に関する研究	國分 伸一	麻酔科学	100,000	補委	日本学術振興会
骨髄幹細胞由来高悪性度口腔扁平上皮癌発生機序の解明と臨床的意義	川又 均	口腔外科学	100,000	補委	日本学術振興会
口腔癌治療における制御性T細胞の変動解析と分子標的薬の効果的な適用法の探索	福本 正知	口腔外科学	1,700,000	補委	日本学術振興会
プロテアーゼインヒビターによる口腔がん細胞の浸潤機構の解明	小宮山 雄介	口腔外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
三叉神経損傷によって惹き起こされる大脳皮質神経回路の可塑的変化の神経メカニズム	坐間 学	口腔外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
脳血管障害患者の運動時におけるT2強調画像を用いた前腕の筋活動の解析	美津島 隆	リハビリテーション科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
高齢脳卒中急性期患者における筋質の変化と、その変化に影響を与える因子の検討	入澤 寛	リハビリテーション科学	1,900,000	補委	日本学術振興会
肝外胆管癌における癌細胞の胃腸分化と癌間質マーカーの発現状態の検討	石田 和之	病理診断学	1,300,000	補委	日本学術振興会
間質性膀胱炎の分子生物学的観点からの病態解明	加賀 勘家	排泄機能センター	1,900,000	補委	日本学術振興会
再生医療技術を応用した新たながん画像診断法及び治療法の開発に関する研究	中神 佳宏	PETセンター	1,100,000	補委	日本学術振興会
Muse細胞を用いた急性心筋炎の病態解明および新規治療法確立	井上 晃男	医学部	300,000	補委	日本学術振興会
サルコペニア対策としての物理的刺激を応用したリハビリ法の開発と分子的機序の解明	中島 敏明	医学部	2,400,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病を合併した冠動脈疾患ベリ-ハイリスク患者の心血管イベント抑制を目的とした冠動脈MRブランクイメージングの有効性を検証する多施設前向き無作為化対照試験	金谷 智明	内科学(心臓・血管)	470,000	補委	AMED
特発性造血障害に関する調査研究	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	11,000,000	補委	厚生労働省
造血器腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	500,000	補委	厚生労働省
眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤を用いた中枢再発予防法による医師主導多施設共同治験	瀬尾 幸子	内科学(血液・腫瘍)	100,000	補委	AMED
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	麻生 好正	内科学(内分泌代謝)	代表者一括計上	補委	厚生労働省
A3243Gミトコンドリア耐糖能異常に対するタウリン療法の実用化	麻生 好正	内科学(内分泌代謝)	500,000	補委	AMED
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	仁保 誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	294,000	補委	AMED
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験	仁保 誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,000,000	補委	AMED
治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究	古郡 規雄	精神神経医学	800,000	補委	厚生労働省
精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証	古郡 規雄	精神神経医学	300,000	補委	AMED

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究	古郡 規雄	精神神経医学	4,000,000	補委	AMED
医療AIの研究開発・実践に伴う倫理的・法的・社会的課題に関する研究	菅原 典夫	精神神経医学	200,000	補委	厚生労働省
認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムの開発と有効性の検証	菅原 典夫	精神神経医学	150,000	補委	厚生労働省
重症気管支喘息患者の生物学的製剤の有効性を予測するバイオマーカーの探索	吉原 重美	小児科学	代表者一括計上	補委	AMED
小児からAYA世代胚細胞腫瘍の治療毒性低減とmiRNA発現の生物学的特性解明を目指した国際共同臨床試験	佐藤 雄也	小児科学	200,000	補委	AMED
JAMEP基本的臨床能力評価試験(GM-ITE: General Medicine In-Training Examination)質向上について	志水 太郎	総合診療医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
B型肝炎に関する病態生理の新たな解明に基づく制御法開発	青木 琢	外科学(肝・胆・膵)	2,608,696	補委	AMED
慢性炎症を背景とした肝発癌の機序解明と肝癌高危険群の囲い込み法の開発	青木 琢	外科学(肝・胆・膵)	3,000,000	補委	AMED
全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究	千田 雅之	呼吸器外科学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験	宇塚 岳夫	脳神経外科学	500,000	補委	AMED
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	種市 洋	整形外科	250,000	補委	厚生労働省
患者レジストリを活用した脊柱靭帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	種市 洋	整形外科	600,000	補委	AMED
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	深美 悟	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	100,000	補委	厚生労働省
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	香坂 信明	産科婦人科学	795,000	補委	AMED
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	山口 重樹	麻酔科学	4,140,000	補委	厚生労働省
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	山口 重樹	麻酔科学	4,000,000	補委	厚生労働省
間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究	山西 友典	排泄機能センター	代表者一括計上	補委	厚生労働省
循環器病に係る急性期から回復期・慢性期へのシームレスな医療提供体制の構築のための研究	竹川 英宏	脳卒中センター	代表者一括計上	補委	厚生労働省

小計20件

合計70件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Toyoda S, Ida K, Kitagawa Y, at al.	心臓・血管内科/循環器内科	Pacemaker treatment for apical hypertrophic cardiomyopathy in the setting of an apical ventricular aneurysm.	JACC Case Rep. 2021 Jul; 3: 1150-1155	Case report
2	Sakuma M, Nishino S, Nasuno T, at al.	心臓・血管内科/循環器内科	Mobilization of progenitor cells and vessel healing after implantation of SYNERGY in acute coronary syndrome.	Sci Rep. 2021 Aug; 11: 17315	Original Article
3	Hashimoto R, Numasawa Y, Yokokura S, at al.	心臓・血管内科/循環器内科	Prevalence of the Academic Research Consortium high bleeding risk criteria in patients undergoing endovascular therapy for peripheral artery disease in lower extremities.	Heart Vessels. 2021 Sep; 36: 1350-1358	Original Article
4	Yonezawa Y, Sakuma M, Abe S, at al.	心臓・血管内科/循環器内科	Repeated in-stent restenosis despite aggressive lipid lowering by PCSK-9 inhibitor treatment: a case report.	Tohoku J Exp Med 2021 Oct;255(2): 123-126.	Case report
5	Kitahara K, Sakuma M, Nishino S, at al.	心臓・血管内科/循環器内科	Validity of flow- mediated dilation and reactive hyperemia index in assessing the risk of coronary artery disease based on the new definition by the Japan Society for Vascular Failure.	Vasc Fail. 2021 Dec; 5: 31-37.	Original Article

6	Sakuma M, Toyoda S, Arikawa T, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Topiroxostat versus allopurinol in patients with chronic heart failure complicated by hyperuricemia: A prospective, randomized, open-label, blinded-end-point clinical trial.	PLoS One. 2022 Jan; 17: e0261445	Original Article
7	Tominaga Keiichi, Tanaka Takanao, Kanazawa Mimari, et al.	消化器内科	A Case of Crohn's Disease with Cardiac Tamponade Caused by Tuberculous Pericarditis: Assessment of a Rare Phenomenon.	Healthcare (Basel) . 2021 Jun 9;9(6):695	Case report
8	Kanazawa Mimari, Tominaga Keiichi, Yamamiya Akira, et al.	消化器内科	Analysis of Endoscopic Evaluation Reliability for Ulcerative Colitis in Histological Remission.	Healthcare (Basel) . 2021 Oct 20;9(11):1405	Original Article
9	Hoshi Koki, Irisawa Atsushi, Tominaga Keiichi, et al.	消化器内科	Association of long-term endoscopic biliary stent placement with choledocholithiasis: a literature review.	Clin J Gastroenterol . 2021 Oct;14(5):1303-1307	Review
10	Yamabe Akane, Irisawa Atsushi, Kunogi Yasuhito, et al.	消化器内科	Development of biliary stent applying the antibacterial activity of silver: A literature review.	Biomed Mater Eng . 2021;32(2):63-71	Review
11	Nagashima Kazunori, Tominaga Keiichi, Fukushi Koh, et al.	消化器内科	Does the Use of Low Osmolality Contrast Medium Reduce the Frequency of Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis: A Comparative Study between Use of Low and High Osmolality Contrast Media.	Digestion . 2021;102(2):283-288	Original Article

12	Izawa Naoya, Tsuchida Kohei, Tominaga Keiichi, et al.	消化器内科	Factors Affecting Technical Difficulty in Balloon Enteroscopy-Assisted Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography in Patients with Surgically Altered Anatomy.	J Clin Med . 2021 Mar 6;10(5):1100	Original Article
13	Kunogi Yasuhito, Izawa Naoya, Tominaga Keiichi, et al.	消化器内科	Multiple cystic lesions around the bile duct.	Pol Arch Intern Med . 2021 Apr 29;131(4):387-388	Case report
14	Kunogi Yasuhito, Tominaga Keiichi, Abe Keiichiro, et al.	消化器内科	Refractory Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Colitis Improved by Tacrolimus: A Case Report.	Healthcare (Basel) . 2021 Apr 5;9(4):418	Case report
15	Takimoto Yoichi, Irisawa Atsushi, Hoshi Koki, et al.	消化器内科	The impact of endoscopic sphincterotomy incision size on common bile duct stone recurrence: A propensity score matching analysis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci . 2021 Nov 26. doi: 10.1002	Original Article
16	Yamabe Akane, Irisawa Atsushi, Yoshida Yoshitsugu, et al.	消化器内科	Validity of Endoscopic Ultrasound Findings of Chronic Pancreatitis: Evaluation from the Viewpoint of Disease Risk Factors.	Digestion . 2021;102(2):289-297	Original Article
17	Abe Keiichiro, Goda Kenichi, Kanamori Akira, et al.	消化器内科	Whole circumferential endoscopic submucosal dissection of superficial adenocarcinoma in long-segment Barrett's esophagus: A case report.	World J Gastrointest Surg . 2021 Oct 27;13(10):1285-1292	Case report

18	Kazunori Nagashima, Masashi Iijima, Kouichirou Kimura, et al.	消化器内科	Does the Use of Low Osmolality Contrast Medium Reduce the Frequency of Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis: A Comparative Study between Use of Low and High Osmolality Contrast Media.	Digestion . 2021;102(2):283-288. doi: 10.1159/000504702	Original Article
19	Kenichi Goda, Manabu Takeuchi, Ryu Ishihara, et al.	消化器内科	Diagnostic utility of a novel magnifying endoscopic classification system for superficial Barrett's esophagus-related neoplasms: a nationwide multicenter study.	Esophagus . 2021 Oct;18(4):713-723	Original Article
20	Yamamiya Akira, Irisawa Atsushi, Hoshi Koki, et al.	消化器内科	Recent Advances in Endosonography-Elastography: Literature Review.	J Clin Med . 2021 Aug 23;10(16):3739	Review
21	Nakamura F, Arai H, Nannya Y, et al.	血液・腫瘍内科	Development of Philadelphia chromosome-negative acute myeloid leukemia with IDH2 and NPM1 mutations in a patient with chronic myeloid leukemia who showed a major molecular response to tyrosine kinase inhibitor therapy.	Int J Hematol. 113(6) 2021 Jun:936-940	Case report
22	Nakamura F, Nakamura Y, Nannya Y, et al.	血液・腫瘍内科	Emergence of t(3;21)(q26.2;q22) during eltrombopag treatment in a patient with relapsed aplastic anemia who received chemotherapy for angioimmunoblastic T-cell lymphoma.	Leukemia Research Reports 2022 Mar:17	Case report

23	Kaiga A, Ishimitsu T, Satonaka H, et al.	腎臓・高血圧内科	Therapeutic effects of allopurinol and topiroxostat in chronic kidney disease patients with hyperuricemia.	Dokkyo J Med Sci 2021; 48(3): 171-181.	Original Article
24	Ishimitsu A, Tojo A, Satonaka H, et al.	腎臓・高血圧内科	Eucommia ulmoides (Tochu) and its extract geniposidic acid reduced blood pressure and improved renal hemodynamics.	Biomed Pharmacother 2021 Jul 15;141:111901. doi:10.1016/j.biopha.2021.111901. Online ahead of print.PMID: 34328117. (オンライン)	Original Article
25	Ishimitsu A, Satonaka H, Furuichi M, et al.	腎臓・高血圧内科	Role of circulating endothelial progenitors in responsiveness to erythropoiesis-stimulating agents in hemodialysis patients.	Ren Replace Ther 2021;7:57.	Original Article
26	Hatakeyama S, Tojo A, Satonaka H, et al.	腎臓・高血圧内科	Decreased Podocyte Vesicle Transcytosis and Albuminuria in APC C-Terminal Deficiency Mice with Puromycin-Induced Nephrotic Syndrome.	Int J Mol Sci. 2021 Dec 14;22(24):13412. doi: 10.3390/ijms222413412.	Original Article
27	Iwashima Y, Kusunoki H, Taniyama A, et al.	腎臓・高血圧内科	Impact of percutaneous transluminal renal angioplasty on autonomic nervous system and natriuresis in hypertensive patients with renal artery stenosis.	Journal of the American Heart Association 2022 Mar 15; 11(6): e023655.	Original Article
28	Keisuke Suzuki, Shiho Suzuki, Tomohiko Shiina, et al.	脳神経内科	Investigating the relationships between the burden of multiple sensory hypersensitivity symptoms and headache-related disability in patients with migraine.	J Headache Pain. 2021 Jul; 22(1):77.	Original Article
29	Keisuke Suzuki, Takao Takeshima, Hisaka Igarashi, et al.	脳神経内科	Impact of the COVID-19 pandemic on migraine in Japan: a multicentre cross-sectional study.	J Headache Pain. 2021 Jun; 22(1):53.	Original Article

30	Keisuke Suzuki, Ayaka Numao, Tomoko Komagamine, et al.	脳神経内科	Impact of the COVID-19 Pandemic on the Quality of Life of Patients with Parkinson's Disease and Their Caregivers: A Single-Center Survey in Tochigi Prefecture.	J Parkinsons Dis. 2021 August; 11(3):1047-1056.	Original Article
31	Keisuke Suzuki, Shiho Suzuki, Yasuo Haruyama, et al.	脳神経内科	Central sensitization in migraine is related to restless legs syndrome.	J Neurol. 2021 Apr;268(4):1395- 1401.	Original Article
32	Eisei Hoshiyama, Takafumi Noguchi, Koji Wake, et al.	脳神経内科	Characteristics of Emergency Neurological Patients Who Were Transported by Helicopter Emergency Medical Services in Tochigi, Japan.	Tohoku J Exp Med. 2022 Apr;30(1):25.	Original Article
33	Tomoko Komagamine, Norito Kokubun, Koichi Hirata	脳神経内科	Hystero-epilepsy in the Tuesday Lessons and NMDA receptor function: A hypothesis for dissociative disorder.	Med Hypotheses. 2021 May; 150:110567.	Original Article
34	Haruki Igarashi, Akio Iwasaki, Ryuta Okabe, et al.	脳神経内科	Evaluation of the common carotid artery and carotid bulb plaque: A population-based study from Japan.	Vascular Failure. 2021 December; 5(1): 7- 12, 2021.	Original Article
35	Yuji Watanabe, Yuka Tsukahara, Hiroaki Fujita, et al.	脳神経内科	Adult-onset Alexander disease mimicking multiple system atrophy predominant cerebellar ataxia.	J Clin Neurosci. 2021 May; 87:150-152.	Case report

36	Mai Hamaguchi, Norito Kokubun, Hadzki Matsuda, et al.	脳神経内科	A case report of secondary neurolymphomatosis showing selective nerve infiltration and massive lumbar plexus enlargement.	BMC Neurol. 2021 Jul; 27;21(1):296.	Case report
37	Keisuke Suzuki	脳神経内科	Current Update on Clinically Relevant Sleep Issues in Parkinson's Disease: A Narrative Review.	J Parkinsons Dis. 2021 August; 11(3): 971-992.	Review
38	Keisuke Suzuki, Madoka Okamura, Yasuo Haruyama, et al.	脳神経内科	Exploring the contributing factors to multiple chemical sensitivity in patients with migraine.	J occup health. 2022 Jan;64(1):e12328.	Original Article
39	Tomoko Komagamine, Takashi Kanbayashi, Keisuke Suzuki, et al.	脳神経内科	"Atypical psychoses" and anti-NMDA receptor encephalitis: A review of literature in the mid-twentieth century.	Psychiatry Clin Neurosci . 2022 Feb;76(2):62-63.	Letter
40	Mai Hamaguchi, Hiroaki Fujita, Tomonari Suzuki, et al.	脳神経内科	Sick sinus syndrome as the initial manifestation of neuromyelitis optica spectrum disorder: a case report.	BMC Neurol . 2022 Feb 14;22(1):56.	Case report
41	Eisei Hoshiyama, Junji Kumasawa, Masatoshi Uchida, et al.	脳神経内科	Phenytoin versus other antiepileptic drugs as treatments for status epilepticus in adults: a systematic review and meta-analysis.	Acute Med Surg . 2022 Jan 7;9(1):e717.	Review
42	Hidehiro Takekawa, Daisuke Tsukui, Saro Kobayashi, et al.	脳卒中センター	Point-of-care ultrasound for stroke patients in the emergency room.	J Med Ultrason (2001) . 2022 Feb 3. (オンライン)	Review

43	Jojima T, Sakurai S, Wakamatsu S, et al.	内分泌代謝内科	Empagliflozin increases plasma levels of campesterol, a marker of cholesterol absorption, in patient with type 2 diabetes: an association with a mild increase in high-density lipoprotein(HDL) cholesterol .	Int J Cardiol 2021 May 15;331:243-248.	Original Article
44	Aso Y, Sagara M, Niitani T, et al.	内分泌代謝内科	Serum high-molecular weight adiponectin and response to dapagliflozin in patients with type 2 diabetes and non-alcoholic fatty liver disease.	J Invest Med 2021 Oct;69(7):1324-1329.	Original Article
45	Iijima T, Hosonuma S, Kurai H, et al.	内分泌代謝内科	Acute effect of add-on therapy with tofogliflozin, a sodium glucose co-transporter 2 inhibitor, on 24-hour glucose profile and glycemic variability evaluated by continuous glucose monitoring in patients with type 2 diabetes receiving dipeptidyl peptidase-4 inhibitors.	Int J Clin Pract 2021 Nov;75(11):e14732.	Original Article
46	Sakurai S, Hosonuma S, Iijima T, et al.	内分泌代謝内科	A case of hyperglycemic hyperosmolar state with hyponatremia and subsequent gastrointestinal bleeding due to acute gastric mucosal lesions.	Dokkyo J Med Sci 2021;48:97-101.	Case report
47	Iijima T, Jojima T, Hosonuma S, et al.	内分泌代謝内科	Symptomatic hypocalcemia after treatment for hyperthyroidism in a woman with chromosome 22q11.2 deletion syndrome complicated by Graves'disease: longitudinal changes in the number of subsets of CD4 and CD8 lymphocytes after thyroidectomy.	Endocr J.2021 Oct 28;68(10):1187-1195.	Case report
48	Aso Y.	内分泌代謝内科	Update in diabetic neuropathy:A call for new diagnostic and treatment approaches.	J Diabetes Investing.2022 Mar;13(3) :432-434.	Review

49	Aso Y, Iijima T, Tomaru T, et al.	内分泌代謝内科	No negative impact of a national state of emergency by covid-19 outbreak on hemoglobin A1c levels in Japanese people with type 2 diabetes living in a semi-rural area of Japan.	Am.J Med Sci 2021 Jul;362(1):104-105.	Letter
50	Aso Y.	内分泌代謝内科	Intensive Risk Factor Management and Cardiovascular Autonomic Neuropathy in Type 2 Diabetes in the ACCORD Trial: a post-hoc analysis.	J Diabetes Invest 2021 Aug;12(8):1316-1318.	Others
51	Akihiro Takemasa	呼吸器・アレルギー内科	Expectations for Aerosol Visualization	Intern Med 15;60(10):1491. 2021 05.15.	Original Article
52	Nobuhiko Uchida , Yasuo Shimizu , Mio Fujimaki , et al	呼吸器・アレルギー内科	Metabolic changes induced by TGF-β1 via reduced expression of phosphatidylserine decarboxylase during myofibroblast transition	J Clin Biochem Nutr . 2022 Mar;70(2):108-116.	Original Article
53	Meitetsu Masawa , Hanako Sato-Yazawa , Korehito Kashiwagi , et al	呼吸器・アレルギー内科	REST Inactivation and Coexpression of ASCL1 and POU3F4 Are Necessary for the Complete Transformation of RB1/TP53-Inactivated Lung Adenocarcinoma into Neuroendocrine Carcinoma	Am J Pathol . 2022 Mar 30;S0002-9440(22)00107-9. . 2022 Jan 9;22(1):31.	Original Article

54	Rinna Tei, Koji Iijima, Koji Matsumoto, et al	呼吸器・アレルギー内科	TLR3-driven IFN- β antagonizes STAT5-activating cytokines and suppresses innate type 2 response in the lung.	J Allergy Clin Immunol . 2022 Mar;149(3):1044-1059.e5.	Original Article
55	Akihiro Takemasa	呼吸器・アレルギー内科	Clopidogrel-induced Eosinophilia and Hypercalcemia with Multiple Organ Lesions Including Eosinophilic Pneumonia	Intern Med . 2022 Feb 8. doi: 10.2169/internalmedicine.9028-21.	Case report
56	Okayasu Hiroaki; Yasui-Furukori Norio; Shimoda Kazutaka	精神神経科	A pregnant woman who experienced auditory hallucinations concurrent with hyperemesis gravidarum: A case report.	Neuropsychopharmacology reports 2021 Dec;41(4):548-550. doi: 10.1002/npr2.12206. Epub 2021 Sep 2.	Case report
57	Sugawara Norio; Yasui-Furukori Norio; Fukushima Atsuhito, et al	精神神経科	Attitudes of Medical Students toward COVID-19 Vaccination: Who Is Willing to Receive a Third Dose of the Vaccine?	Vaccines 2021 Nov 8;9(11):1295. doi: 10.3390/vaccines9111295.	Original Article
58	Sasaki Taro; Yasui-Furukori Norio; Komahashi-Sasaki Hazuki, et al	精神神経科	CYP2D6*10 polymorphism and the enantioselective O-desmethylation of S-(+)- and R-(-)-venlafaxine in Japanese psychiatric patients.	Basic & clinical pharmacology & toxicology 2021 May;128(5):677-685. doi: 10.1111/bcpt.13560. Epub 2021 Feb 9.	Original Article
59	Kawamata Yasushi; Sugawara Norio; Ishioka Masamichi, et al	精神神経科	Different Attitudes of Patients and Psychiatrists Toward Benzodiazepine Treatment.	Neuropsychiatric disease and treatment 2021 Jun 15;17:1927-1936. doi: 10.2147/NDT.S314440. eCollection 2021.	Original Article

60	Komahashi-Sasaki Hazuki; Yasui-Furukori Norio; Sasaki Taro, et al	精神神経科	Effects of CYP2D6 Genotypes on Venlafaxine Metabolism in Japanese Psychiatric Patients With Depression.	Therapeutic drug monitoring 2021 Oct 1;43(5):681-687. doi: 10.1097/FTD.0000000000000854.	Original Article
61	Tasaki M, Yasui-Furukori N, Yokoyama S, et al	精神神経科	Hypoprolactinemia and hyperprolactinemia in male schizophrenia patients treated with aripiprazole and risperidone and their relationships with testosterone levels.	Neuropsychopharmacology reports 2021 Sep;41(3):379-384. doi: 10.1002/npr2.12190. Epub 2021 Jun 29.	Original Article
62	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Shimoda K.	精神神経科	Projections of psychiatrists' distribution for patients in Japan: a utilization-based approach.	Human resources for health 2021 Apr 9;19(1):49. doi: 10.1186/s12960-021-00594-z.	Original Article
63	Tokumitsu Keita; Norio Yasui-Furukori; Adachi Naoto, et al	精神神経科	Real-world clinical predictors of manic/hypomanic episodes among outpatients with bipolar disorder.	PloS one 2021 Dec 31;16(12):e0262129. doi: 10.1371/journal.pone.0262129. eCollection 2021.	Original Article
64	Tasaki Minami; Yasui-Furukori Norio; Kubo Kazuyoshi, et al	精神神経科	Relationship of Prolactin Concentrations to Steady-State Plasma Concentrations of Aripiprazole in Patients With Schizophrenia.	Therapeutic drug monitoring 2021 Aug 1;43(4):589-592. doi: 10.1097/FTD.0000000000000843.	Original Article
65	Maehara R, Kawamata Y, Ichikawa M, et al	精神神経科	Suicide attempt induced by drug-induced leukoencephalopathy: A case report	Neuropsychopharmacology reports 2021 Dec;41(4):551-553. doi: 10.1002/npr2.12214. Epub 2021 Oct 15.	Case report
66	Kikuchi Kota; Yasui-Furukori Norio; Hasegawa Chie, et al	精神神経科	Takotsubo cardiomyopathy after hypoglycemia in a patient with anorexia nervosa.	Annals of general psychiatry 2021 Sep 4;20(1):39. doi: 10.1186/s12991-021-00364-0.	Case report

67	Yokoyama Saaya; Sugisaki Tomomi; Ryota Yoshida, et al	精神神経科	Transient glyphosate encephalopathy due to a suicide attempt.	Neuropsychopharmacology reports 2021 Sep;41(3):444-447. doi: 10.1002/npr2.12201. Epub 2021 Aug 6.	Case report
68	Yasui-Furukori N, Muraoka H, Hasegawa N, et al	精神神経科	Association between the examination rate of treatment-resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study.	Neuropsychopharmacol Rep . 2022 Mar;42(1):3-9.	Original Article
69	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Maruo K, et al	精神神経科	Psychological Distress in Caregivers for People with Dementia: A Population-Based Analysis of a National Cross-Sectional Study.	J Alzheimers Dis2022;85(2):667-674.	Original Article
70	Shinozaki M, Yasui-Furukori N, Adachi N, et al	精神神経科	Differences in prescription patterns between real-world outpatients with bipolar I and II disorders in the MUSUBI survey.	Asian J Psychiatr 2022 Jan;67:102935.	Original Article
71	Norio Yasui-Furukori, Norio Sugawara, Kazutaka Shimoda	精神神経科	Appropriate Monitoring May Affect the Life Expectancy of Patients with Mental Disorders in Japan: Literature Review on Guidelines for Serious Physical Risks	Dokkyo Medical J 1:14-21, 2022.	Review

72	Ito T, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Diagnostic and Management Errors in an Immunodeficient Patient with Pneumococcal Pneumonia with Bacteraemia due to Incorrect Assessment of the Patient's Immune Status	Eur J Case Rep Intern Med. 2021 Apr 26; 8(4): 002557	Case report
73	Yokose M, Shimizu T	総合診療科	A Case of Ramsay Hunt Syndrome That Began with Vestibular Symptoms: A Great Mimicker	Am J Med. 2021 Apr; 134(4): e271-e272	Case report
74	Sakamoto T, Kaburaki M, Shimizu T	総合診療科	Salt-and-pepper skin appearance & Systemic sclerosis	QJM. 2021 May 6: hcab070	Letter
75	Kawamura R, Suzuki Y, Harada Y, et al.	総合診療科	Atypical presentation of colorectal carcinoma with sole multiple osteolytic bone metastases: a case report	J Med Case Rep. 2021 May 21; 15(1): 256	Case report
76	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Acute upper airway obstruction by a goitre due to Hashimoto's thyroiditis	BMJ Case Rep. 2021 Sep 8; 14(9): e245198	Case report
77	Harada Y, Katsukura S, Kawamura R, et al.	総合診療科	Effects of a Differential Diagnosis List of Artificial Intelligence on Differential Diagnoses by Physicians: An Exploratory Analysis of Data from a Randomized Controlled Study	Int J Environ Res Public Health. 2021 May 23; 18(11): 5562	Original Article

78	Hirosawa T, Harada Y, Ikenoya K, et al.	総合診療科	The Utility of Real-Time Remote Auscultation Using a Bluetooth-Connected Electronic Stethoscope: Open-Label Randomized Controlled Pilot Trial	JMIR Mhealth Uhealth 2021; 9(7): e23109	Original Article
79	Kawamura R, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Diagnostic Effect of Consultation Referral from Gastroenterologists to Generalists in Patients with Undiagnosed Chronic Abdominal Pain: A Retrospective Study	Healthcare 2021; 9(9): 1150	Original Article
80	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Oral stings by spermatophores of a squid	QJM. 2022 Mar 22; 115(3): 175-176	Case report
81	Kawamura R, Harada Y, Sugimoto S, et al.	総合診療科	Incidence of Diagnostic Errors Among Unexpectedly Hospitalized Patients Using an Automated Medical History-Taking System With a Differential Diagnosis Generator: Retrospective Observational Study	JMIR Med Inform 2022; 10(1): e35225	Original Article
82	Shimizu T	総合診療科	System 2 Diagnostic Process for the Next Generation of Physicians: "Inside" and "Outside" Brain-The Interplay between Human and Machine	Diagnostics (Basel). 2022 Jan 30; 12(2): 356	Original Article

83	Matsudera S, Sato-Yazawa H, Terada M, et al.	上部消化管外科	Histopathological evaluation of the effectiveness of oral eppikajutsuto treatment for lymphatic malformation	J Pediatr Surg, 2021 Sep;56:1668-1672	Original Article
84	Shotaro Matsudera, Yoshihito Kano, Yasuko Aoyagi, et al.	上部消化管外科	A pilot study analyzing the clinical utility of comprehensive genomic profiling using plasma cell-free DNA for solid tumor patients in Japan (PROFILE Study)	Annals of Surgical Oncology, 2021 Dec;28:8497-8505	Original Article
85	Fujita J, Nakajima M, Muroi H, et al.	上部消化管外科	The prognostic significance of Plakophilin-1 expression in esophageal cancer	Anticancer Res 2021 Jul;41:3401-3407	Original Article
86	Ihara K, Nakamura T, Yamaguchi S, et al.	上部消化管外科	The indicator of nutritional status is useful for determining the operative method at the time of operation for ulcerative colitis	Dokkyo J. Medical Sci 2021.Oct;48:183-189	Original Article
87	Nakamura T, Ihara K, Takayanagi M, et al.	上部消化管外科	Short-term results of robot-assisted rectal cancer surgery	Dokkyo J. Medical Sci 2021.Oct;48:161-170	Original Article
88	Nakajima M, Muroi H, Kikuchi M, et al.	上部消化管外科	Dislocation of the gastric conduit reconstructed via the posterior mediastinal route is a significant risk factor for anastomotic disorder after McKeown esophagectomy	Ann Gastroenterol Surg 2021 Dec;6:75-82	Original Article

89	Matsudera S, Kano Y, Aoyagi Y, et al.	上部消化管外科	A pilot study of comprehensive genomic profiling for pediatric and adolescent and young adult solid tumor patients in Japan	Dokkyo Medical J. 2022.Mar;1:56-62	Original Article
90	Ihara K, Nakamura T, Takayanagi M, et al.	上部消化管外科	Synchronous Abdominal Aortic Aneurysm and Sigmoid Colon Cancer Treated with Endovascular Aneurysm Repair and Laparoscopic Sigmoidectomy	Dokkyo J. Medical Sci. 2021.Jul;48: 89-90	Case report
91	Yusuke Nishi, Taku Aoki, Takayuki Shimizu, et al.	肝・胆・膵外科	Significance of cytoplasmic expression of telomerase reverse transcriptase in patients with hepatocellular carcinoma undergoing liver resection.	Mol Clin Oncol. 2021 Nov; 15: 244 (オンライン).	Original Article
92	Shozo Mori, Taku Aoki, Takayuki Shiraki, et al.	肝・胆・膵外科	Efficacy and feasibility of adjuvant gemcitabine plus cisplatin chemotherapy after major hepatectomy for biliary tract cancer.	Anticancer Res. 2021 Oct; 41: 5231-5240.	Original Article
93	Takayuki Shimizu, Taku Aoki, Shun Sato, et al.	肝・胆・膵外科	Clinical predictors of unresectable disease at laparotomy in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma planning to undergo surgical resection.	Anticancer Res. 2021 Oct; 41: 5171-5177.	Original Article

94	Takayuki Shimizu, Taku Aoki, Kyung Hwa Park, et al.	肝・胆・膵外科	Volumetric assessment and clinical predictors of cirrhosis in patients undergoing hepatectomy for hepatocellular carcinoma with presumed normal liver function.	Hepatol Int. 2021 Oct; 15: 1258-1267.	Original Article
95	Shozo Mori, Taku Aoki, Yuhki Sakuraoka, et al.	肝・胆・膵外科	Predictors of poor pathological response to neoadjuvant gemcitabine plus S-1 chemotherapy in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma.	Pancreas. 2021 May-Jun; 50: 744-750.	Original Article
96	Takatsugu Matsumoto, Takehiro Okabayashi, Kenta Sui, et al.	肝・胆・膵外科	A proposal to modify the 8th edition of the UICC staging system for pancreatic adenocarcinoma.	Langenbecks Arch Surg. 2021 May; 406: 667-677.	Original Article
97	Mitsuru Ishizuka, Norisuke Shibuya, Kazutoshi Takagi, et al.	肝・胆・膵外科	Omentectomy does not affect the postoperative outcome of patients with locally advanced gastric cancer: a systematic review and meta-analysis.	J Surg Res. 2021 Aug; 264: 287-295.	Original Article
98	Shozo Mori, Taku Aoki, Yuhki Sakuraoka, et al.	肝・胆・膵外科	Impact of adverse events of adjuvant and neoadjuvant chemotherapies on outcomes of patients with pancreatic ductal adenocarcinoma.	Cancer Chemother Pharmacol. 2021 Jul; 88: 109-120.	Original Article
99	Taku Aoki, Keiichi Kubota, Sho Kiritani, et al.	肝・胆・膵外科	Survey of surgical resections for neuroendocrine liver metastases: a project study of the Japan Neuroendocrine Tumor Society (JNETS).	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021 Jun; 28: 489-497.	Original Article

100	Shozo Mori, Taku Aoki, Yuhki Sakuraoka, et al.	肝・胆・膵外科	Efficacy of adjuvant chemotherapy according to the pathological response to neoadjuvant chemotherapy among patients with pancreatic ductal adenocarcinoma.	Anticancer Res. 2021 Mar; 41: 1629-1639.	Original Article
101	Mitsuru Ishizuka, Norisuke Shibuya, Kazutoshi Takagi, et al.	肝・胆・膵外科	Impact of anastomotic leakage on postoperative survival of patients with colorectal cancer: a meta-analysis using propensity score matching studies.	Surg Oncol. 202 Jun; 37: 101538.	Original Article
102	Taku Aoki, Keiichi Kubota, Takatsugu Matsumoto, et al.	肝・胆・膵外科	Safety assessment of laparoscopic liver resection: a project study of the Endoscopic Liver Surgery Study Group of Japan.	J Hepatobiliary Pncreat Sci. 2021 Jun; 28: 470-478.	Original Article
103	Takatsugu Matsumoto, Taku Aoki, Keiichi Kubota.	肝・胆・膵外科	pancreatic head adenocarcinoma complicated by portal venous aneurysm.	J Gastrointest Surg. 2021 Jun; 25: 1628-1630.	Case report
104	Kato T, Nakajima T, Fukuda T, et al	心臓・血管外科	Preoperative Serum GDF-15, Endothelin-1 Levels, and Intraoperative Factors as Short-Term Operative Risks for Patients Undergoing Cardiovascular Surgery	Journal of clinical medicine 2021 May 2;10(9):1960. doi: 10.3390/jcm10091960.	Original Article
105	Takei Y, Yazawa H, Shibasaki I, Fukuda H	心臓・血管外科	Three-dimensional Thoracoscopic Resection of a Left Ventricular Papillary Fibroelastoma	Dokkyo Journal of Medical Sciences 48(3):191-195,2021	Case report

106	Saito S, Sairenchi T, Tezuka M, Takei Y, et al	心臓・血管外科	Contemporary short-term outcomes of surgery for aortic stenosis: transcatheter vs. surgical aortic valve replacement	General thoracic and cardiovascular surgery 2022 Feb;70(2):124-131. doi: 10.1007/s11748-021-01672-8. Epub 2021 Jun 22.	Original Article
107	Shibasaki I, Usui A, Morita S, et al	心臓・血管外科	Sociodemographic and work-related factors influencing long working hours among cardiovascular surgeons in Japan: a cross-sectional study	Industrial health 2022 Feb 8;60(1):16-28. doi: 10.2486/indhealth.2021-0039. Epub 2021 Oct 8.	Original Article
108	Kamai T, Kijima T, Tsuzuki T, et al.	泌尿器科	Increased expression of adenosine 2A receptors in metastatic renal cell carcinoma is associated with poorer response to anti-vascular endothelial growth factor agents and anti-PD-1/Anti-CTLA4 antibodies and shorter survival	Cancer Immunol Immunother 70(7), 2009-2021, 2021. 7.	Original Article
109	Mizuno T, Kamai T, Tsuzuki T, et al.	泌尿器科	Elevated expression of B7 homolog 4 is associated with disease progression in upper urinary tract urothelial carcinoma	Cancer Immunol Immunother, 2021. 7. (オンライン)	Original Article
110	Kamai T, Higashi S, Murakami S, et al.	泌尿器科	Single nucleotide variants of succinate dehydrogenase A gene in renal cell carcinoma	Cancer science 112(8), 3375-3387, 2021. 8.	Original Article

111	Betsunoh H, Sakamoto S, Kaji Y, et al.	泌尿器科	Clinical Significance of 18F-fluorodeoxyglucose and Glucose Transporter 1 mRNA in Clear Cell Renal Cell Carcinoma	Anticancer res 41(10), 5179-5188, 2021. 10.	Original Article
112	Kurashina R, Ando K, Inoue M, et al.	泌尿器科	Platelet-to-Lymphocyte Ratio Predicts the Efficacy of Pembrolizumab in Patients With Urothelial Carcinoma	Anticancer Res 42(2): 1131-1136. 2022. 2.	Original Article
113	Kamai T, Murakami S, Arai K, et al.	泌尿器科	Increased expression of Nrf2 and elevated glucose uptake in pheochromocytoma and paraganglioma with SDHB gene mutation	BMC Cancer 22(1), 289, 2022. 3.	Original Article
114	Yokoyama M, Kijima T, Takada-Owada A, et al.	泌尿器科	A case of estrogen-secreting adrenocortical carcinoma: Comprehensive immunohistochemical analysis of disorganized steroid genesis	IJU Case Rep 4(5), 318-321, 2021. 9.	Case report
115	Fuchizawa H, Kijima T, Takada-Owada A, et al.	泌尿器科	Metastatic mucinous tubular and spindle cell carcinoma of the kidney responding to nivolumab plus ipilimumab	IJU Case Rep 4(5), 333-337, 2021. 9.	Case report

116	Suzuki I, Kijima T, Takada-Owada A, et al.	泌尿器科	A case of clear cell renal cell carcinoma with vena cava thrombus responding to presurgical avelumab, and axitinib	IJU Case Rep 4(6), 412-416, 2021. 11.	Case report
117	Suzuki I, Kijima T, Wake K, et al.	泌尿器科	A case of renal trauma successfully treated by close monitoring of intravesical pressure and subsequent intervention	Urol Case Rep 24, 42, 102014. 2022. 5.	Case report
118	Kijima T	泌尿器科	Editorial Comment from Dr Kijima to Impact of preoperative sarcopenia and myosteatosis on prognosis after radical cystectomy in patients with bladder cancer	Int J Urol, 2021. 4.	Others
119	Kijima T	泌尿器科	Editorial Comment to Programmed cell death-ligand 1 expression in different molecular subtypes of upper tract urothelial carcinoma	Int J Urol, 2021. 9.	Others
120	Kijima T	泌尿器科	Editorial Comment to A case of sarcoidosis-like reaction associated with immune checkpoint inhibitors in metastatic renal cell carcinoma	Int J Urol, 2022. 1.	Others

121	Nakayama T, Lee IT, Jiang S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Determinants of SARS-CoV-2 entry and replication in airway mucosal tissue and susceptibility in smokers	Cell Rep Med 2021 Oct 19;2(10):100421. doi: 10.1016/j.xcrm.2021.100421. Epub 2021 Sep 28.	Original Article
122	Nobuaki Kosaka; Kiyoshi Hasegawa; Kaori Kiuchi, et al	産科婦人科	Prognostic factors in patients with recurrent ovarian cancer treated with radiation therapy	European Journal of Gynaecological Oncology Vol.42, Issue 2, April 2021 pp.311-318	Original Article
123	Sakamoto Chiyori; Fujinoki Masakatsu; Kitazawa Masafumi 他	産科婦人科	Serotonergic signals enhanced hamster sperm hyperactivation.	The Journal of reproduction and development J Reprod Dev. 2021 Aug; 67(4): 241–250.	Original Article
124	Atsushi Fujita, Chonji Fukumoto, Tomonori Hasegawa, et al.	口腔外科	Morphometric and Histomorphometric Evaluations of High-Purity Macro/Microporous β Tricalcium Phosphate in Maxillary Sinus Floor Elevation: Preliminary results on a Retrospective, Multi-center, Observational Study	BMC Oral Health. 2021 Sep; 21: 448	Original Article
125	Ryouta Kamimura, Daisuke Uchida, Shin-ichiro Kanno, et al.	口腔外科	Identification of binding proteins for TSC22D1 family proteins using mass spectrometry	Int J Mol Sci. 2021 Oct; 22: 10913	Original Article
126	Chonji Fukumoto, Ryo Oshima, Yuta Sawatani, et al.	口腔外科	Surveillance for Patients with Oral Squamous Cell Carcinoma after Complete Surgical Resection as Primary Treatment: A Single-Center Retrospective Cohort Study	Cancers. 2021 Nov; 13: 5843	Original Article

127	Furumai H, Nakazato Y, Machida H, et al	病理部	Cytological features and immunohistochemical findings related to lymphomatous effusion in an angioimmunoblastic T-cell lymphoma patient: Case report.	Diagn Cytopathol. 2021 Aug; 49: 964-7	Letter
128	Nakazato Y, Machida H, Horii Y, et al	病理診断科	Next-generation sequencing analyses using biopsy forceps and cytology brush rinse fluids for lung cancer genotyping: Report of five cases.	Diagn Cytopathol. 2021 Oct; 49: 1148-9	Letter

129	Akira Ishimitsu, Akihiro Tojo, Hiroshi Satonaka, et al	血液浄化センター	Eucommia ulmoides (Tochu) and its extract geniposidic acid reduced blood pressure and improved renal hemodynamics.	Biomed Pharmacother 2021 Jul 15;141:111901. doi: 10.1016/j.biopha.2021.111901.	Original Article
130	Hatakeyama S, Tojo A, Satonaka H, et al	血液浄化センター	Decreased Podocyte Vesicle Transcytosis and Albuminuria in APC C-Terminal Deficiency Mice with Puromycin-Induced Nephrotic Syndrome.	Int J Mol Sci. 2021 Dec 14;22(24):13412. doi: 10.3390/ijms222413412.	Original Article
131	Akira Ishimitsu 1, Akihiro Tojo, et al	血液浄化センター	AL-Kappa Primary Amyloidosis with Apolipoprotein A-IV Deposition.	Intern Med 61: 871-876, 2022. doi: 10.2169/internalmedicine.7955-21	Case report
132	Akiko Kaiga, Toshihiko Ishimitsu, Hiroshi Satonaka, Yoshio Iwashima, Akihiro Tojo.	血液浄化センター	Therapeutic effects of allopurinol and topiroxostat in chronic kidney disease patients with hyperuricemia.	Dokkyo Journal of Medical Sciences 48(3):171-181, 2021	Original Article
133	Shigeki Yamaguchi , Takaaki Terahara , Koji Okawa , et al	麻酔科	A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled, comparative study to evaluate the efficacy and safety of newly developed diclofenac patches in patients with cancer pain	pain.2021 Sep 25. doi: 10.1097/01.j.pain.0000831636.00436.22. Online ahead of print. (オンライン)	Original Article
134	Hanawa Hiroki;Nagaoka Ryo;Fukuda Yuya, et al	麻酔科	Facial onset sensory and motor neuropathy in a pain clinic outpatient: a case report.	J Med Case Rep.2021 Dec;15(1):609	Case report

135	Kimura Yoshiyuki; Yamaguchi Shigeki; Suzuki Takahiro, et al	麻醉科	Switching From Pregabalin to Mirogabalin in Patients with Peripheral Neuropathic Pain: A Multi-Center, Prospective, Single-Arm, Open-Label Study (MIROP Study).	Pain Ther. 2021 Jun;10(1):711-727	Original Article
136	Inami S, Moridaira H, Takeuchi D, et al.	整形外科	Anterior instrumentation surgery for the treatment of Lenke type 1AR curve patterns	J Neurosurg Spine. 2021 Oct 1:1-8. PMID: 34598161	Original Article
137	Yamamoto T, Taneichi H, Seo Y, et al.	整形外科	MRI-based kinematics of the menisci through full knee range of motion	J Orthop Surg (Hong Kong). 2021 May-Aug;29(2) PMID: 34027726	Original Article
138	Ueda H, Arima H, Kanemura T, et al.	整形外科	The Development of a Nationwide, Multicenter Electronic Database for Spinal Instrumentation Surgery in Japan: Japanese Spinal Instrumentation Society Database (JSIS-DB)	Healthcare (Basel). 2021 Dec 31;10(1):78. PMID: 35052241	Original Article
139	Nakayama K, Kato H, Ikegami S, et al.	整形外科	Prevalence and associated factors of primary elbow osteoarthritis in the Japanese general elderly population: a Japanese cohort survey randomly sampled from a basic resident registry	J Shoulder Elbow Surg. 2022 Jan;31(1):123-132. PMID: 34454037	Original Article
140	Mariko Kumazawa, Hiroaki Arakawa, Sumiko Maeda, et al.	放射線科	A Case of pulmonary venous malformation accidentally discovered in an adolescent boy.	J Thorac Imaging. 2021 Nov 1;36(6):W118-W120.	Case report

141	Morinaga Y, Akutsu H, Kino H et al.	脳神経外科	Endoscopic endonasal transmaxillary-pterygoid approach for skull-base non-vestibular schwannomas in 10 consecutive patients.	Acta Neurochir (Wien). 2022 Feb;164(2):331-341.	Original Article
142	Ogawa D, Akutsu H, Tanaka S et al.	脳神経外科	Opening the palatovaginal canal to maximize anterior sphenoidotomy in endoscopic endonasal surgery	Laryngoscope.2021 Nov; 131(11): 2461-2464.	Original Article
143	Morinaga Y, Akutsu H, Kino H et al.	脳神経外科	Endoscopic endonasal extreme far-medial approach for a lower clivus osteochondroma in a patient with hereditary multiple exostoses. Illustrative case	J Neurosurg Case Lessons.2021 May; 1(20)	Case report
144	Morinaga Y, Nii K, Hanada H et al.	脳神経外科	Clinical features of Barré-Lièou syndrome and efficacy of trazodone for its treatment: A retrospective single center study	Drug Discov Ther. 2021 May;11;15(2):108-111.	Original Article
145	Kurabayashi Takashi;Asato Hiroataka;Suzuki Yasutoshi, et al	形成外科・美容外科	A Herniorrhaphy Lamination Technique for the Reconstruction of Midline Abdominal Wall Defects.	Plastic and reconstructive surgery. Global open. 2021 Apr 23;9(4)e3558	Original Article
146	Takada Goro; Asato Hiroataka; Umekawa Kohei, et al	形成外科・美容外科	Alantoaxial rotatory fixation after microtia reconstruction surgery	Plastic and reconstructive surgery. Global open, 2021 Aug 23;9(8):e3760	Original Article

147	Fujita Yuji, Imataka George, Kikuchi Jin, et al.	小児科	Successful mild brain hypothermia therapy followed by targeted temperature management for pediatric hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome.	European review for medical and pharmacological sciences. 2021 Apr;25(7)	Case report
148	Otsubo Yuto, Kano Yuji, Suzumura Hiroshi, et al.	小児科	Type 3 antenatal Bartter syndrome presenting with mild polyuria.	BMJ case reports. 2021 Apr 7;14(4)(オンライン)	Case report
149	Fujita Yuji, Nomura Kohei, Yoshihara Shigemi.	小児科	Protein-losing enteropathy in an infant with severe atopic dermatitis.	BMJ case reports. 2021 Apr 22;14(4)(オンライン)	Case report
150	George Imataka, Yoshihara Shigemi.	小児科	Immature ovarian teratoma with anti-NMDA-receptor encephalitis in a 13-year-old Japanese female patient.	The Medical journal of Malaysia. 2021 May;76(3):436-437	Case report
151	Koyama Satomi, Kubota Takuo, Naganuma Junko, et al.	小児科	Incidence rate of vitamin D deficiency and FGF23 levels in 12- to 13-year-old adolescents in Japan	Journal of bone and mineral metabolism. 2021 May;39(3):456-462	Original Article
152	Fujita Yuji, Imataka George, Ohkusu Misako, et al.	小児科	Cerebral haemorrhagic infarction associated with acute otitis media in a 4-year-old boy	BMJ case reports. 2021 May 21;14(5)	Case report
153	Akutsu Akira, Otsubo Yuto, Suzumura Hiroshi, et al.	小児科	Congenital cutaneous candidiasis in one infant among a twin sibling pair	Archives of disease in childhood. Fetal and neonatal edition. 2021 May 27(オンライン)	Case report

154	Fujita Yuji, Kuwashima Shigeko, Imataka George, et al	小児科	Raccoon eye and Battle's sign in an infant with multiple Wormian bones	BMJ case reports. 2021 Jun 17;14(6)(オンライン)	Case report
155	Otsubo Yuto, Watabe Yoshiyuki, Yamaguchi Takeshi, et al.	小児科	Umbilical Cord Ulcerations with Naked Umbilical Artery.	The Journal of pediatrics. 2021 Jul;234:282	Case report
156	Yoshihara Shinya, Fujita Yuji, Miyamoto Kenji, et al.	小児科	Kawasaki Disease with Mild Encephalitis/Encep halopathy with Reversible Splenial Lesion in a 2-Year- Old Girl.	Indian journal of pediatrics. 2021 Jul;88(7):718	Case report
157	Fujita Yuji, Kuwashima Shigeko, Nomura Kohei, et al.	小児科	Diagnosis and Treatment for Acute Focal Bacterial Nephritis With Renal Abscess Based on Magnetic Resonance Imaging Evaluation.	The Pediatric infectious disease journal. 2021 Jul 1;40(7)(オンライン)	Case report
158	Fujita Yuji, Sato Yuya, Takagi Yuhi, et al.	小児科	Hemophagocytic lymphohistiocytosis associated with primary cutaneous gamma-delta T-cell lymphoma presenting with subcutaneous panniculitis in a 12- year-old girl.	Pediatric blood & cancer. 2021 Jul;68(7)	Case report

159	Imataka George, Otsubo Yuto, Fujita Yuji, et al.	小児科	An infantile late-onset case Group of B Streptococcus meningitis diagnosed with a rapid latex kit.	The Medical journal of Malaysia. 2021 Jul;76(4):588-590	Case report
160	Miyamoto Manabu, Kato Masaya, Suzumura Hiroshi, et al.	小児科	Eosinophilic Bloody Stool in a Neonate.	The Journal of pediatrics, 2021 Jul;234:282	Case report
161	Miyamoto Manabu, Ishii Junpei, Yoshihara Shigemi.	小児科	An 11-month-old boy with uvulo-palatoglossal junctional ulcers.	Paediatrics & child health. 2021 Aug 3;26(7):392-393	Case report
162	Fujita Yuji, Sugaya Takeshi, Tanaka Takanao, et al.	小児科	Ustekinumab as the First Biological Agent for Crohn's Disease in a 10-Year-Old Girl.	ohoku journal of experimental medicine. 2021 Sep;255(1):57-60	Case report
163	Fujita Yuji, Miyamoto Kenji, Imataka George, et al.	小児科	Postinfectious Bronchiolitis Obliterans Misdiagnosed as Bronchial Asthma in a Pediatric Patient.	The Tohoku journal of experimental medicine, 2021 Aug;254(4):257-260.	Case report

164	Imataka George, Yui Kunio, Shiko Yuki, et al.	小児科	Urinary and Plasma Antioxidants in Behavioral Symptoms of Individuals With Autism Spectrum Disorder.	Frontiers in psychiatry. 2021 Sep 3;12:684445(オンライン)	Original Article
165	Arisaka Osamu, Naganuma Junko, Go Ichikawa Go, et al.	小児科	Body mass index adjusted for pubertal status and metabolic risk.	The Journal of pediatrics, 2021 Sep;236:329	Letter
166	Miyamoto Manabu, Yoshihara Shigemi, Shioya Hiromi, et al.	小児科	Lung sound analysis in infants with risk factors for asthma development.	Health science reports. 2021 Sep 17;4(3)	Original Article
167	Miyamoto Manabu, Yoshihara Shinya, Sugawara Saori, et al.	小児科	Thymus and activation-regulated chemokine elevation in a child with acute generalized exanthematous pustulosis.	Allergology international, 2021 Oct;70(4):512-514	Case report
168	Miyamoto Manabu, Suzumura Hiroshi, Yoshihara Shigemi	小児科	Retropharyngeal emphysema in a newborn with inspiratory stridor	Pediatrics international, 2021 Oct;63(10):1249-1250	Case report
169	Nakayama Koryo, Ichikawa Go, Naganuma Junko, et al.	小児科	Adiposity rebound in very-low-birth-weight infants.	J Pediatr Endocrinol Metab. 2021 Nov 30;35(1):105-108.	Original Article
170	Fujita Yuji, Tominaga Keiichi, Tanaka Takanao, et al.	小児科	Ulcerative colitis relapse after Helicobacter pylori eradication in a 12-year-old boy with duodenal ulcer.	BMC gastroenterology. 2021 Nov 10;21(1):424	Case report

171	Kaori Sekine, Akira T Kawaguchi, Masaki Miyazawa, et al.	小児科	Transplantation of Fibroblast Sheets with Blood Mononuclear Cell Culture Exerts Cardioprotective Effects by Enhancing Anti-Inflammation and Vasculogenic Potential in Rat Experimental Autoimmune Myocarditis Model	Biology (Basel) . 2022 Jan 10;11(1):106	Original Article
172	Junko Naganuma, Satomi Koyama, Osamu Arisaka, et al.	小児科	Low serum 25-hydroxyvitamin D level is associated with obesity and atherogenesis in adolescent boys.	Ann Pediatr Endocrinol Metab. 2022 Mar;27(1):30-36	Original Article
173	Mori Hitomi, Hayashi Shujiro, Mori Satoshi, et al	皮膚科	A case of systemic nickel allergy with diarrhea-predominant irritable bowel syndrome in which nickel intake restriction and administration of a probiotic formulation were effective.	Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology. 2021 Oct;70(4):515-516.	Case report
174	Okamoto Maki, Hayashi Shujiro, Ikegami Tetsuharu, et al.	皮膚科	Development of Sweet's syndrome and the immunological finding of systemic lupus erythematosus during the course of mixed connective tissue disease.	International journal of dermatology. 2021 Mar;60(3):e107-e108. (オンライン)	Case report

175	Ishikawa Satoko, Kosho Tomoki, Kaminaga Tomoko, et al.	皮膚科	Endoplasmic reticulum stress and collagenous formation anomalies in vascular-type Ehlers-Danlos syndrome via electron microscopy.	The Journal of dermatology. 2021 Apr;48(4):481-485.	Original Article
176	Otani Yokurei, Hayashi Shujiro, Kaneko Yuki, et al.	皮膚科	Pustular psoriasis associated with bullous pemphigoid with fluctuating anti- BP180 antibody titre according to the condition of pustular lesions.	European journal of dermatology : EJD. 2021 Feb 1;31(1):107- 109.	Case report

計176件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 当院の倫理審査委員会(臨床研究審査委員会)について、審査の流れ、手続きについて、教育・研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回 (持回審査)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回 + e-learning
・ 研修の主な内容 ○ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について ○ e-learning教材「eAPRIN」医学研究者標準コース	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1. 初期臨床研修

当院では初期臨床研修制度に規定される、基幹型臨床研修病院（大学病院）として、2年間の初期研修医教育を行っています。

プライマリ・ケアの習得を目的に、当院が擁する30診療科と臨床研修協力病院からなる病院群で研修を行うことにより、頻度の高い症例から高度医療まで網羅し、幅の広い初期臨床研修を行うことを可能としております。

当院における高度の医療に関する研修については、各診療科とも開業医及び市中病院より病診連携による紹介患者の受入れを実施しており、各種移植手術等の高難度手術適応患者の受入れや高度がん治療適用患者の受入れ、特定疾患治療等に代表される高度医療を実施し、同時に初期研修医・専攻医の診療参加および研修指導を実施しています。また、救急科研修においては当院の救命救急センターにて、救急車やドクターヘリによる3次救急患者（外傷・内疾患）の高度救命治療も研修カリキュラムの一環として組み込んでいます。

2. 専門研修

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして専門研修に続きます。

当院の専門研修は、これらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした専門研修プログラムとして、豊富な症例数と経験豊富な指導医により日本専門医機構が認定する全19基本領域の基幹プログラムを整備しています。また、当院では大学病院として高度医療を実施しており、サブスペシャリティ専門医資格の取得を目指す研修も可能です。

以上の研修プログラムにより専門医の育成・輩出を通じ地域医療への貢献に務めています。研修プログラム一覧は以下のとおりです。

【日本専門医機構認定 基本領域専門研修プログラム一覧（基幹プログラム）】

※歯科口腔外科を除く

- | | |
|-----------|------------------------------|
| ①内科（総合内科） | 獨協医科大学病院内科専門医養成プログラム |
| ②小児科 | 獨協医科大学病院小児科専門医養成プログラム |
| ③皮膚科 | 獨協医科大学病院皮膚科研修プログラム |
| ④精神科 | 獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラム |
| ⑤外科 | 獨協医科大学外科専門研修プログラム |
| ⑥整形外科 | 獨協医科大学病院整形外科専門医養成プログラム |
| ⑦産科婦人科 | 獨協医科大学病院産婦人科専門研修プログラム |
| ⑧眼科 | 獨協医科大学病院眼科専門医養成プログラム |
| ⑨耳鼻咽喉科 | 獨協医科大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成プログラム |
| ⑩泌尿器科 | 獨協医科大学病院泌尿器科専門研修プログラム |
| ⑪脳神経外科 | 獨協医科大学脳神経外科専門研修プログラム |

- ⑫放射線科 獨協医科大学病院放射線科専門研修プログラム
- ⑬麻酔科 獨協医科大学病院麻酔科専門医研修プログラム
- ⑭病理診断科 獨協医科大学病院病理専門研修プログラム
- ⑮臨床検査科 獨協医科大学病院臨床検査専門研修プログラム
- ⑯救急科 獨協医科大学病院救急科専門医研修プログラム
- ⑰形成外科 獨協医科大学形成外科研修プログラム
- ⑱リハビリテーション科
獨協医科大学病院リハビリテーション科専門医養成プログラム
- ⑲総合診療科（家庭医）
獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム

口腔外科（歯科医師） 口腔外科専門医取得コース

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	148人（歯科医師含む）
-------------	--------------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊田 茂	心臓・血管内科/循環器内科	主任教授	29年	
入澤 篤志	消化器内科	主任教授	33年	
三谷 絹子	血液・腫瘍内科	主任教授	37年	
石光 俊彦	腎臓・高血圧内科	主任教授	40年	
鈴木 圭輔	脳神経内科	主任教授	20年	
麻生 好正	内分泌代謝内科	主任教授	33年	
仁保 誠治	呼吸器・アレルギー内科	主任教授	28年	
倉沢 和宏	リウマチ膠原病内科	主任教授	39年	
志水 太郎	総合診療科	主任教授	16年	
下田 和孝	精神神経科	主任教授	38年	
井川 健	皮膚科	主任教授	26年	
楫 靖	放射線科	主任教授	32年	
菱沼 昭	感染制御・臨床検査医学	主任教授	40年	

吉原 重美	小児科	主任教授	38 年	
小嶋 一幸	外科・小児外科 (第1外科)	主任教授	35 年	
窪田 敬一	外科 (第2外科)	主任教授	40 年	
林 光弘	乳腺科	学内教授	29 年	
福田 宏嗣	心臓・血管外科	主任教授	34 年	
千田 雅之	呼吸器外科	主任教授	36 年	
阿久津 博義	脳神経外科	主任教授	24 年	
種市 洋	整形外科	主任教授	35 年	
釜井 隆男	泌尿器科	主任教授	30 年	
妹尾 正	眼科	主任教授	35 年	
春名 眞一	頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	主任教授	37 年	
三橋 暁	産婦人科 (産科婦人科)	主任教授	31 年	
美津島 隆	リハビリテーション科	主任教授	32 年	
朝戸 裕貴	形成外科・美容外科	主任教授	37 年	
濱口 眞輔	麻酔科	主任教授	32 年	
山口 重樹	麻酔科	主任教授	29 年	
小野 一之	救急科 (救命救急センター)	主任教授	39 年	
石田 和之	病理診断科	主任教授	23 年	
川又 均	歯科口腔外科	主任教授	35 年	歯科医師

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

①医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

対象者	内容	開催日	人数	合計人数
新採用看護職者	新人オリエンテーション	4月初旬	132	132
全職種	方針説明会	5月	108	2221
	看護研究発表会	6月	1135	
	看護研究発表会	11月	1086	
研修Ⅰa	新人看護師交流会	6月14日(月)	25	130
		6月15日(火)	25	
		6月25日(金)	24	
		6月29日(月)	24	
		6月30日(火)	21	
		7月6日(火)	11	
	災害看護	11月15日(月)	44	123
		11月18日(木)	42	
		11月25日(木)	37	
研修Ⅰb	看護を語ろう	12月2日(木)	85	85
		12月10日(金)		
		12月20日(月)		
研修Ⅱ	コミュニケーション	5月7日(金)	36	212
		5月13日(木)	29	
		5月14日(金)	25	
	事例報告会	11月5日(金)	39	
		11月12日(金)	37	
	リーダーシップ	1月11日(火)	22	
1月14日(金)		24		
研修Ⅱ終了者	リーダーシップ	6月10日(木)	18	72
		6月24日(木)	20	
		7月2日(金)	34	
研修Ⅲ	研究入門	6月30日(水)	65	38
	研究デザイン	7月15日(木)	68	
	倫理審査の受け方	10月18日(月)	28	
	発表の仕方	11月16日(火)	15	
	発表会	12月22日(水)	7	
新人看護職員指導者	求められる能力と資質	4月紙面学習	49	196
新人教育実施看護師	求められる能力と資質	4月紙面学習	73	
実習指導者	実習指導者としての心構え	5月紙面学習	74	
看護補助者	看護補助者の役割	4月22日(木)	38	99
		4月27日(火)	35	
		4月30日(金)	26	

②業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

	時間外勤務・超過勤務について	7月	86	86
師長	師長研修会について	4月	43	511
	Web会議の運用	5月	37	
	診療報酬	6月	41	
	就業管理-健康で安全な職場風土を作る-	7月	40	
	就業管理-健康で安全な職場風土を作る-	8月	43	
	人事管理を考える	9月	45	
	就業管理-健康で安全な職場風土を作る-	10月	44	
	就業管理-健康で安全な職場風土を作る-	11月	44	
	看護研究発表会の講評	12月	40	
	1年の振り返りと部署管理	1月	48	
	上記グループ研修	2月	42	
	看護部の目標・新人入職看護師の勤務	3月	44	
	主任	看護倫理を考える	6月	
研修会の在り方		7月	50	
時間管理		8月	48	
時間管理 情報収集		9月	45	
時間管理 内服指示確認等		10月	44	
時間管理 情報収集		11月	46	
時間管理		12月	49	
時間管理 アンケート結果報告と検討		2月	38	
時間管理		3月	43	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・令和3年度 第1回放射線部一般撮影・撮影検討会

「股関節撮影」

日時：令和3年5月31日（月） 時間：16：30～17：00

参加人数： 12名

・令和3年度 第1回役職者研修会

「ITEM報告：キヤノンメディカル・シーメンスヘルスケア・フィリップス・ジャパン」

日時：令和3年6月8日（火）Web研修 時間：17：00～18：00

参加人数：17名

・令和3年度 第1回放射線部マンモ装置勉強会

「マンモ・吸引式組織生検装置 ATEC・Eviva 説明会」

日時：令和3年6月11日（金） 時間：16：00～17：00

参加人数： 11名

・令和3年度 第2回放射線部一般撮影・撮影検討会

「足関節撮影」

日時：令和3年6月24日（木） 時間：16：30～17：00

参加人数： 10名

・令和3年度 第3回放射線部一般撮影・撮影検討会

「肩関節撮影」

日時：令和3年6月30日（火） 時間：16：30～17：00

参加人数： 10名

・令和3年度 第2回放射線部マンモ装置勉強会

「マンモグラフィ撮影装置説明会・フジフィルム」

日時：令和3年7月6日（火） 時間：16：30～17：00

参加人数： 10名

- ・令和3年度 第2回役職者研修会

「ITEM報告：コニカミノルタ・富士フィルム・キヤノン」

日時：令和3年7月7日（水）Web研修 時間：17：00～18：00

参加人数： 22名

- ・令和3年度 第3回放射線部マンモ装置勉強会

「マンモグラフィ撮影装置説明会・シーメンスヘルスケア」

日時：令和3年7月21日（水） 時間：16：00～17：00

参加人数： 7名

- ・令和3年度 第5回役職者研修会

「新潟医療福祉大学 臨床実習終了報告」

日時：令和3年9月22日（水） 時間：17：00～17：30

参加人数： 17名（臨床実習生：1名）

- ・令和3年度 第1回放射線部勉強会

「DR画像処理の基礎①：フジフィルム」

日時：令和3年10月5日（木） 時間：17：00～18：00

参加人数： 15名（臨床実習生：2名）

- ・令和3年度 第2回放射線部勉強会

「医療被ばく低減施設認定更新に向けての説明報告」

日時：令和3年10月7日（木） 時間：17：00～18：00

参加人数： 21名

- ・令和3年度 第4回放射線部一般撮影・撮影検討会

「肩関節撮影・復習編」

日時：令和3年10月8日（金） 時間：16：30～17：00

参加人数： 9名（臨床実習生：3名）

- ・令和3年度 第5回放射線部一般撮影・撮影検討会

「胸部側面撮影」

日時：令和3年11月5日（金） 時間：16：30～17：00

参加人数： 11名

- ・令和3年度 第7回役職者研修会

「新潟医療福祉大学 臨床実習終了報告」

日時：令和3年11月11日（木） 時間：17：00～17：30

参加人数： 12名（臨床実習生：1名）

- ・令和3年度 第3回放射線部勉強会

「DR画像処理の基礎②：フジフィルム」

バーチャルグリッドについて

日時：令和3年11月11日（木）Web開催 時間：17：30～18：30

参加人数： 12名

- ・令和3年度 第6回放射線部一般撮影・撮影検討会

「肘関節撮影」

日時：令和3年11月22日（月） 時間：16：30～17：00

参加人数： 7名（臨床実習生：3名）

- ・令和3年度 第7回放射線部一般撮影・撮影検討会

「骨盤計測撮影・復習編」

日時：令和3年12月8日（水） 時間：16：30～17：00

参加人数： 9名（臨床実習生：2名）

- ・令和3年度 第4回放射線部勉強会

「医療被ばく低減施設認定更新に向けての説明報告」

各部門の経過報告及び訪問審査時の準備

日時：令和3年12月8日（水） 時間：17：00～17：50

参加人数： 13名

- ・令和3年度 第9回役職者研修会

「国際医療福祉大学 臨床実習終了報告」

日時：令和3年12月9日（木） 時間：17：00～17：50

参加人数： 11名（臨床実習生：8名）

- ・令和3年度 第5回放射線部勉強会

「CT, MRIにおける最新技術情報：GEヘルスケア・ジャパン」

日時：令和4年1月25日（木）Web開催 時間：17：10～18：00

参加人数： 18名

- ・令和3年度 第6回放射線部勉強会

「コニカミノルタ動態解析システムご紹介/最新FPDシステム紹介」

日時：令和4年2月1日（木）Web開催 時間：17：10～18：00

参加人数： 27名

- ・令和3年度 第7回放射線部勉強会

「富士フィルムメディカル社製品の説明会」

① 軽量X線透視診断装置 ②胸部X線画像病変検出ソフトウェア

③CXR-AIDと現在使用のCALNEO AQR0を組み合わせた運用

日時：令和4年2月21日（火）Web開催 時間：17：10～18：00

参加人数： 24名

- ・インジェクショントレーナー養成研修 2021/10/8 全21名

- ・適応追加説明会（トレアキシン点滴静注液） 2021/4/10 全9名

・抗がん剤調製ロボット説明会 2021/4/16 全9名

・新規採用薬説明会（シルガード9水性懸濁筋注シリンジ、リティンパ耳科用セット）

2021/4/28 全38名

・精神科領域の服薬指導ならび臨床報告 2021/4/28 全38名

・新規採用薬説明会（エムガルティ皮下注オートインジェクター、マサーレッド錠）

2021/5/19 全32名

・新規採用薬説明会（エドルミズ錠、ジムソ膀胱内注入液50%） 2021/6/2 全37名

・新規採用薬説明会（バイクロット配合静注用、ロケルマ懸濁用散分包） 2021/6/23 全38

名

・「オブジーボ」とプラチナ製剤及びベバシズマブを含む化学療法の併用療法追加について

2021/7/16 全8名

・新規採用薬説明会（ダルテパリンNa静注シリンジ） 2021/7/21 全35名

・新規採用薬説明会（ダラキューロ配合皮下注、レミトロ点滴静注用） 2021/7/28 全35名

・新規採用薬説明会（アルンブリグ錠、ケシンプタ皮下注ペン） 2021/8/11 全32名

・新規採用薬説明会（ツートラム錠、ポライビー点滴静注用、ユプリズナ点滴静注）

2021/8/25 全43名

・新規採用薬説明会（アリケイス吸入液、オラデオカプセル、コレクチム軟膏）

2021/9/15 全32名

・新規採用薬説明会（エブリスディドライシロップ、アイモビーグ皮下注ペン）

2021/9/22 全38名

・適応追加説明会（フォシーガ錠） 2021/9/22 全38名

・新規採用薬説明会（ゼプリオンTRI水懸筋注シリンジ、タズベリク錠） 2021/10/13 全41

名

・新規採用薬説明会（アジョビ皮下注シリンジ、バリキサドライシロップ、フルマゼニル静注シリンジ） 2021/10/27 全43名

- ・新規採用薬説明会（シグニフォーLAR筋注用キット、レバスティブ皮下注用）

2021/11/10 全37名

- ・新規採用薬説明会（ツイミーグ錠、ベリキューボ錠） 2021/11/24 全29名

- ・新規採用薬説明会（ユニツキシ点静注、ウパシタ静注透析用シリンジ、ハイヤスタ錠）

2021/12/8 全31名

- ・新規採用薬説明会（ペマジール錠、オンダンセトロン注シリンジ） 2021/12/22 全25名

- ・化学療法室論文妙録会 がん患者の脱毛回復について 2021/12/27 全9名

- ・新規採用薬説明会（オプチレイ240注シリンジ、オプチレイ320注シリンジ）

2022/1/22 全32名

- ・新規採用薬説明会（パドセブ点静注用、レットヴィモカプセル） 2022/1/26 全23名

- ・適応追加説明会（ジャディアン錠） 2022/1/26 全23名

・新規採用薬説明会（エンレスト錠、ラゲブリオカプセル、ノクサフィル錠、ノクサフィル点
滴静注） 2022/2/9 全31名

- ・新規採用薬説明会（オラネジン消毒液1.5%OR） 2022/2/16 全31名

- ・適応追加説明会（ビンダケルカプセル） 2022/2/16 全31名

- ・新規採用薬説明会（ゼビュディ点静注液） 2022/3/2 全19名

- ・適応追加説明会（アクテムラ点静注用SARS-CoV-2） 2022/3/2 全19名

- ・職場におけるハラスメントの防止について 2022/3/2 全19名

- ・新規採用薬説明会（ボンベンディ静注用、セルセプト懸濁用散） 2022/3/9 全23名

- ・新規採用薬説明会（サフネロー点静注、ソグルーヤ皮下注） 2022/3/23 全18名

- ・栃木県立衛生福祉大学校 臨床検査学科実習生の臨地実習報告会：2021年7月13日 23名

- ・関甲信支部・首都圏支部医学検査学会（第57回）予演会：2021年9月6日 27名

- ・第40回栃木県医学検査学会予演会：2021年9月16日、9月22日 55名

- ・日本医療検査科学会第53回大会予演会：2021年10月5日 23名

- ・第39回日本染色体遺伝子検査学会学術集会、第68回日本臨床検査医学会学術集会、

第61回臨床化学会年次学術集会予演会：2021年10月27日 27名

・菱沼教授最終講義：2022年2月24日から3月24日 86名

※看護部については別紙参照

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・放射線部装置説明会

「Fuji Film社製ポータブル装置 CALNEO AQRO 操作説明」

日時：令和3年4月1日（木）・2日（金）・5日（月）・8日（木）・9日（金）

12日（月）・13日（火）・14日（水）・15日（木）・16（金）

時間：16:00～16:30

参加人数：55名

・令和3年度 第1回役職者定例報告会

日時：令和3年4月1日（木） 時間：16:30～17:30

参加人数：20名

・令和3年度 第2回役職者定例報告会

日時：令和3年4月21日（水） 時間：16:00～17:00

参加人数：18名

・令和3年度 第3回役職者定例報告会

日時：令和3年5月19日（水） 時間：16:00～17:00

参加人数：15名

・令和3年度 第4回役職者定例報告会

日時：令和3年6月18日（金） 時間：16:30～17:30

参加人数：16名

・令和3年度 第5回役職者定例報告会

日時：令和3年7月28日（水） 時間：16:00～17:00

参加人数：16名

・令和3年度 第3回役職者研修会

「目標管理のための「面談の進め方」人材育成につながる正しい活用法」

#1 面談に臨む前に

日時：令和3年7月28日（水） video研修 時間：17：30～18：00

参加人数：18名

・令和3年度 第6回役職者定例報告会

日時：令和3年8月18日（水） 時間：16：00～17：00

参加人数：20名

・令和3年度 第4回役職者研修会

「目標管理のための「面談の進め方」人材育成につながる正しい活用法」

#2 期初の目標設定面談の進め方

日時：令和3年8月18日（水） video研修 時間：17：00～17：30

参加人数：21名

・令和3年度 第7回役職者定例報告会

日時：令和3年9月22日（水） 時間：16：00～17：00

参加人数：17名

・令和3年度 第5回役職者研修会

「目標管理のための「面談の進め方」人材育成につながる正しい活用法」

#3 期末の評価面談の進め方

日時：令和3年9月22日（水） video研修 時間：17：30～18：00

参加人数：17名

・令和3年度 第8回役職者定例報告会

日時：令和3年10月22日（金） 時間：16：00～17：00

参加人数：19名

- ・令和3年度 第6回役職者研修会

「一次評価者のための人事評価入門」 #1 評価者なら知っておきたい基礎知識

日時：令和3年10月22日（金） video研修 時間：17：00～17：30

参加人数：20名

- ・令和3年度 第9回役職者定例報告会

日時：令和3年11月18日（木） 時間：17：00～17：30

参加人数：18名

- ・令和3年度 第8回役職者video研修会

「一次評価者のための人事評価入門」 #2 評価者をどのように実践するか

日時：令和3年11月18日（木） video研修 時間：17：30～18：00

参加人数：18名

- ・令和3年度 第10回役職者定例報告会

日時：令和3年12月17日（金） 時間：16：00～17：00

参加人数：13名

- ・令和3年度 第9回役職者研修会

「管理職研修シリーズ」

#1 誰でも身につくリーダーシップ

日時：令和3年12月17日（金） video研修 時間：17：00～17：40

参加人数：13名

- ・令和3年度 第11回役職者定例報告会

日時：令和4年1月21日（金） 時間：16：30～17：30

参加人数：16名

- ・令和3年度 第12回役職者定例報告会

日時：令和4年2月18日（金） 時間：16：30～17：30

参加人数：14名

- ・令和3年度 第13回役職者定例報告会

日時：令和4年3月17日（木） 時間：17：00～18：00

参加人数：15名

- ・ ISO15189 拡大・継続審査における是正処置研修会：2021年5月24日から5月27日 82名
- ・ ISO15189 感染対策：2021年6月14日から6月27日 86名
- ・ ISO15189 患者急変時の対応：2021年6月1日から6月13日 86名
- ・ ISO15189 緊急時・災害時の対応：2021年7月12日から7月25日 86名
- ・ ISO15189 倫理規定・患者情報の守秘義務：2021年8月16日から8月29日 86名
- ・ ISO15189 毒物・劇物管理、廃棄物管理：2021年8月30日から9月12日 86名
- ・ 医学系研究に関する倫理講習：2021年6月21日から9月30日 59名
- ・ ISO15189 臨床検査センター医療安全講習会：2021年9月21日から10月4日 86名
- ・ ISO15189 （QMS）を理解しよう：2021年10月15日から10月26日 86名

※看護部については別紙参照

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・令和3年度 三病院合同Web研修会

（獨協医科大学病院・獨協医科大学埼玉医療センター・獨協医科大学日光医療センター）

「動画を用いた業務マニュアル -作成と活性-

「RIS update」

日時：令和4年2月8日（火） Web開催（Microsoft Team）

時間：17：00～18：00

参加人数：16名

○地域薬学ケア専門薬剤師研修：（全32回）

抗がん剤の制吐対策2021/5/13全10名、現在の症例相談2021/5/27全3名、irAE対策について

2021/6/3全6名、 血液疾患の治療についてirAE症例提示2021/6/10全5名、 味覚障害について2021/6/24全10名、 多発性骨髄腫について2021/7/1全4名、 乳がん治療について2021/7/8全5名、 MMとBCの症例提示死亡までの経過2021/7/29全5名、 薬局薬剤師における検査値活用の実際2021/8/5全4名、 終末期医療とACPについて2021/8/19全10名、 抗がん剤の下痢対策2021/8/26全4名、 現在の症例相談2021/9/30全4名、 症例の書き方①医療薬学会の資料を使用して2021/10/7全3名、 症例の書き方②だめな症例の書き方2021/10/14全2名、 妊孕性について2021/10/21全4名、 大腸がんについて2021/10/28全4名、 英語論文の読み方2021/11/4全4名、 疼痛の評価2021/11/10全3名、 胃がんについて2021/11/17全5名、 便秘について2021/11/24全4名、 症例査読会加藤先生の2症例2021/12/1全4名、 症例査読会秋山先生の2症例2021/12/15全4名、 論文紹介抗がん剤による脱毛について必ず回復するのか2021/12/22全4名、 論文紹介ARBとがんについて2022/1/5全4名、 論文紹介SARS-CoV-2感染症とワクチンの効果について2022/1/12全4名、 症例大腸がんの最初から最後まで2022/1/27全4名、 ストーマについて2022/2/2全4名、 肝臓がんについて2022/2/9全3名、 症例肝臓がんの最初から最後まで2022/2/16全4名、 メンタルケア2022/3/9全5名、 がんの基礎と臨床2022/3/23全4名、 オッズ比について2022/3/30全4名

○獨協医科大学病院薬剤部 薬薬連携セミナー：（全3回）

抗がん剤の基礎知識③カプランマイヤーって何？2021/5/28全25名、 抗がん剤の基礎知識④抗がん剤の特徴2021/8/27全25名、 がん薬物療法 胃がんについて2021/10/29全24名

・栃木県立衛生福祉大学校 臨床検査学科実習生の臨地実習

：2021年4月12日～7月13日 60日間 2名 8:30～17:00（実施要項に基づき各検査部門研修

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 麻生好正
管理担当者氏名	庶務課 鶴見 好邦 医事保険課 車田 みゆき 診療記録管理部 石川 昌宏 医療安全推進センター 細田 誠 医療連携部門 松浦 讓 感染制御センター 麻生 保 経理課 吉田 裕一 臨床研修センター 石橋 広昭 薬剤部 臼井 悟

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	
		各科診療日誌	庶務課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療記録管理部	
		看護記録	診療記録管理部	
		検査所見記録	診療記録管理部	
		エックス線写真	診療記録管理部	
		紹介状	診療記録管理部	
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			診療記録管理部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
		高度の医療の提供の実績	医事保険課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
		高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター	
		閲覧実績	庶務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携部門 医事保険課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター	

診療録は、1患者1ID制で診療記録管理部が一元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。

診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 経理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 経理課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター SDセンター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター
管理者が有する権限に関する状況	庶務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 麻生 好正	
閲覧担当者氏名	事務部次長兼庶務課長	
閲覧の求めに応じる場所	事務部	
閲覧の手続の概要 1. 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出 2. 1により病院長まで上申 3. 2により、本人確認(身分証等の提示)の後に情報開示		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全管理に関する基本的な考え方 ○組織に関する基本的事項 ○医療安全推進センターの設置に関する基本方針 ○医療安全管理委員会の設置に関する基本方針 ○監査委員会による外部監査に関する基本方針 ○特定機能病院間相互のピアレビューに関する基本方針 ○医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○医療事故発生時の対応に関する基本方針 ○高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の医療提供に関する基本方針 ○患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ○患者からの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針 ○本指針の改廃 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： ○医療に係る安全管理のための指針(基本方針)に関すること ○医療安全管理委員会の規程に関すること ○医療安全対策の検討及び研究に関すること ○医療事故の調査・分析及び再発防止策の立案、実施、周知に関すること ○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ○医療安全対策の実施状況の調査、確認に関すること ○医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること ○監査委員会からの指摘に関すること ○内部通報窓口の設置に関すること ○医療安全に関する診療内容のモニタリングに関すること ○院内巡視（ラウンド）に関すること 	

- 病院長への報告基準（全死亡事例の報告及び一定水準以上の有害事象等の報告）に関すること
- その他医療安全対策に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 35 回

- ・ 研修の内容（すべて）：

○開催日；令和3年4月1日（木）

形態；新規採用者オリエンテーション（医師、看護師、その他医療従事者）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「医薬品安全管理について」

「医療機器安全管理について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

医療安全推進センター 医療安全管理者 永瀬 直

薬剤部 部長 医薬品安全管理責任者 本田雅巳

臨床工学部 技師長 山口剛史

参加者；191名

○開催日；令和3年4月5日（月）

形態；新規採用者オリエンテーション（臨床研修医）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

参加者；51名

○開催日；令和3年4月～令和4年3月（2回／月） 全24回

形態；中途／復職者オリエンテーション

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「薬剤管理について」

「医療機器安全管理について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江

医療安全推進センター 医療安全管理者 永瀬 直

臨床工学部 技師長 山口剛史

参加者；209名

うち、医師／レジデント、臨床研修医 24名

その他医療従事者 185名

○開催期間；令和3年7月1日（木）～令和3年9月30日（木）

形態；2021年度セイフティマネージャー研修①

テーマ；「コンフリクトマネジメント（紛争発見時の対応）」

開催方法；e-ラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；34名（対象；2021年度新任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和3年7月1日（木）～令和3年9月30日（木）

形態；2021年度セイフティマネージャー研修②

テーマ；「コンフリクトマネジメント（紛争解決の対応）」

開催方法；e-ラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；34名（対象；2021年度新任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和3年7月1日（木）～令和3年9月30日（木）

形態；2021年度セイフティマネージャー研修③

テーマ；「医療事故調査制度」

開催方法；e-ラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；64名（対象；2021年度再任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和3年7月1日（木）～令和3年9月30日（木）

形態；2021年度セイフティマネージャー研修④

テーマ；「医療事故調査制度（事故の再発防止に向けた提言）」

開催方法；e-ラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；64名（対象；2021年度再任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和3年5月24日（月）～7月31日（土）

形態；講習会（第1回医療安全講習会）

講師；病院長 窪田敬一

医療安全推進センター長 種市洋

テーマ；「医療安全・一般」

開催方法；e-ラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；2,216名

○開催期間；令和3年6月14日（月）、7月1日（木）～9月30日（木）

形態；講習会（第2回医療安全講習会）

講師；京都大学医学部附属病院 医療安全推進室

教授 松村由美 先生

テーマ；「インシデントレポートの書き方について」

開催方法；Web開催、e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；1,205名

○開催期間；令和3年10月18日（月）、11月1日（金）～12月31日（金）

形態；講習会（第3回医療安全講習会）

講師；浜松医科大学医学部 医療法学

教授 大磯義一郎 先生

テーマ；「事故当事者に対するメンタルケア・ピアサポート」

開催方法；会場+Web開催、e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；2,185名

○開催期間；令和3年11月15日（月）、12月1日（水）～令和4年
1月31日（月）

形態；講習会（第4回医療安全講習会）

講師；獨協医科大学 情報基盤センター

センター長 坂田信裕

テーマ；「Society 5.0の時代を見据えた個人情報の保護について」

開催方法；会場+Web開催、e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；1,503名

○開催期間；令和4年3月1日（火）～3月31日（木）

形態；講習会（第5回医療安全講習会）

講師；小グループ代表者6名

テーマ；セイフティマネージャー小委員会活動内容報告

①グループ；心電図モニター関連

②グループ；睡眠薬・せん妄

③グループ；安全器材の使用

④グループ；離床感知システム導入

⑤グループ；ポリファーマシー

⑥グループ：院内ラウンド

開催方法；e-ラーニング

参加者；1,109名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) 標準化・規則化等の推進
 - 2) 定期的な医療安全管理部門広報（ニュースレター）の発行（1回/月）
 - 3) 病院幹部、医療安全管理委員会委員による院内ラウンド
 - 4) 医療安全講習会の理解度確認のためのe-ラーニングの導入

必要に応じたRCA分析、PARM分析の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無												
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>制定 平成 19 年 10 月 1 日 改訂 平成 24 年 1 月 18 日 改訂 平成 27 年 10 月 1 日 改訂 平成 30 年 4 月 1 日 改訂 平成 31 年 2 月 1 日</p> <p>○院内感染防止対策に関する基本的な考え方 ○院内感染防止に関する基本的事項 ○院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ○感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針 ○患者さん等に対する当該指針の閲覧にする基本方針 ○患者さんからの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>													
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回												
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1) 院内ラウンドの報告 2) 病原体の検出報告（MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、CDの検出状況等） 3) 感染症治療薬使用状況（毎月の抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬） 4) HIV感染症関連報告 5) ASTからの注意喚起 6) 感染症発生報告書提出状況 7) その他</p> <p>・ 開催状況：</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 令和3年4月27日</td> <td>第7回 令和3年10月26日</td> </tr> <tr> <td>第2回 令和3年5月25日</td> <td>第8回 令和3年11月30日</td> </tr> <tr> <td>第3回 令和3年6月29日</td> <td>第9回 令和3年12月28日</td> </tr> <tr> <td>第4回 令和3年7月27日</td> <td>第10回 令和4年1月25日</td> </tr> <tr> <td>第5回 令和3年8月31日</td> <td>第11回 令和4年2月22日</td> </tr> <tr> <td>第6回 令和3年9月28日</td> <td>第12回 令和4年3月29日</td> </tr> </table>		第1回 令和3年4月27日	第7回 令和3年10月26日	第2回 令和3年5月25日	第8回 令和3年11月30日	第3回 令和3年6月29日	第9回 令和3年12月28日	第4回 令和3年7月27日	第10回 令和4年1月25日	第5回 令和3年8月31日	第11回 令和4年2月22日	第6回 令和3年9月28日	第12回 令和4年3月29日
第1回 令和3年4月27日	第7回 令和3年10月26日												
第2回 令和3年5月25日	第8回 令和3年11月30日												
第3回 令和3年6月29日	第9回 令和3年12月28日												
第4回 令和3年7月27日	第10回 令和4年1月25日												
第5回 令和3年8月31日	第11回 令和4年2月22日												
第6回 令和3年9月28日	第12回 令和4年3月29日												
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回												
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>○院内感染防止対策講習会（全教職員対象）</p> <p>第1回 講義形式：SafetyPlus（e-ラーニング） 配信期間：令和3年7月29日（木）～令和3年9月30日（木） 内 容：職業感染対策</p>													

講 師：星野三奈（感染制御センター・看護主任）
福島篤仁（感染制御センター・副センター長）

（再配信）期間：令和3年11月15日（月）～令和3年1月31日（月）

参加数：2,440名

第2回 講義形式：会場参加

日 時：令和3年11月1日（月） 17時～18時

場 所：関湊記念ホール、臨床医学棟10階講堂

内 容：当院での新型コロナウイルス感染症の取り組みについて

講義① 重症患者対応と救命救急センターの取り組み

講師 和氣晃司（救急医学，准教授）

講義② 当科が対応したCOVID-19症例の報告

講師 池田直哉（呼吸器・アレルギー内科，助教）

講義③ 当院における新型コロナウイルス検査体制

講師 鈴木弘倫（感染制御センター，臨床検査技師主任）

会場参加対象者：診療部長会、病院連絡会委員および各診療科医師 3名程度

参加数：84名

講義形式：SafetyPlus（e-ラーニング）

配信期間：令和3年11月15日（月）～令和4年1月31日（月）

参加数：1,951名

○新規採用者オリエンテーション

日 時：令和3年4月1日（木）

場 所：[医師・後期研修医] 基礎医学棟223教室、325教室、[医師以外] 関湊記念ホール

内 容：[医師・後期研修医] 院内感染防止対策について、新型コロナ対策・抗菌薬適正使用
[医師以外] 院内感染防止対策について

講 師：[医師・後期研修医] 長岡 匠（感染制御センター・薬剤師）

鈴木弘倫（感染制御センター・臨床検査技師）

[医師以外] 松浦美和（感染制御センター・看護師）

参加数：191名（医師 17、後期研修医 16、医師以外 158）

○新規採用（臨床研修医）オリエンテーション

開催日：令和3年4月7日（水）

時 間：14時～17時

場 所：教育医療棟6階 シミュレーション講義室

内 容：講義①「感染症概論・感染症ポイント」

講師① 福島篤仁（感染制御センター・副センター長）

講義②「臨床微生物・抗酸菌検査・血液培養検査について」

講師② 鈴木弘倫（臨床検査センター・臨床検査技師）

講義③「抗菌薬適正使用」

講師③ 長岡 匠（感染制御センター・薬剤師）

講義④「院内感染対策まとめ」「新型コロナウイルス関連」

講師④ 松浦美和（感染制御センター・看護師）

講義⑤「職業感染対策」

講師⑤ 星野三奈（感染制御センター・看護師）

参加数：51名（医師 47、歯科医 4）

○中途採用・復帰者オリエンテーション

開催日：毎月2回（1日、11日）

時 間：[医師・後期研修医] 10時30分頃～20分程度、[医師以外] 13時30分～20分程度

場 所：[医師・後期研修医] 事務局2階会議室など、[医師以外] 病院3階大会議室など

内 容：[医師・後期研修医] 院内感染防止対策について、新型コロナ対策・抗菌薬適正使用

〔医師以外〕院内感染防止対策・新型コロナ対策について
講 師：〔医師・後期研修医〕長岡 匠（感染制御センター・薬剤師）
鈴木弘倫（感染制御センター・臨床検査技師）
〔医師以外〕松浦美和（感染制御センター・看護師）
参加数： 193名（医師 16、後期研修医 4、初期研修医 4、医師以外 87、派遣 82）

○中途採用・夜間勤務者（看護補助アシスタント；委託）研修
開催日：令和3年4月5日（月）、6月24日（木）、8月2日（月）、10月1日（金）、10月5日（火）、11月8日（月）、
12月1日（水）、令和4年1月5日（水）、3月22日（火）
時 間：14時40分～16時40分、15時～16時など
場 所：病院3階大会議室、看護部研修室など
内 容：感染対策について～患者の安全を守るために～
講 師：松浦美和（感染制御センター・看護師）
参加数：26名

○委託業者対象講習会
開催日：令和3年11月2日（火）、11月5日（金）、11月8日（月）、11月9日（火）、11月10日（水）、
11月11日（木）、11月12日（金）、11月15日（月）、11月18日（木）、11月19日（金）、11月22日（月）、
11月24日（水）、11月26日（金）、11月27日（土）、11月29日（月）、11月30日（火）、12月3日（金）、
12月6日（月）、12月7日（火）、12月13日（月）、12月17日（金）、12月22日（水）
時 間：9時～、11時～、12時10分～、13時30分～、15時～、16時～（各20分）
場 所：中会議室No.1、看護部研修室、大会議室、職員食堂など
内 容：感染防止対策～ニューノーマルとは、新型コロナウイルス対策～
講 師：松浦美和（感染制御センター・看護師）
参加数：377名（時間外救急受付6、警備・整備77、清掃56、栄養部71、リネン33、物流94、
患者環境整備等23、レストラン17）

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症起因菌検出時に臨床検査センターから、主治医および感染制御センターにその都度報告される。感染症の届出を要するものが速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。

感染症管理支援ライブラリーにより電子カルテ上で患者の菌検出情報、抗菌薬使用状況等を把握し感染症の患者情報が迅速に得られ、医師、看護師の感染対策が早期に開始されている。また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。

感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。感染症届出の手順について、全ての職員に配付している「医療安全管理マニュアル（ポケット版）」に明記している。

職員対して周知・伝達が必要な情報等はICTニュース等により情報提供をしている。学内専用ホームページを開設して①院内感染防止対策マニュアル、②感染防止講習会日程表、③ICTニュース並びに抗菌薬適正使用支援チーム（AST）からの注意喚起を掲載し情報提供している。

○新型コロナウイルス感染症について

- ・新型コロナウイルス感染症関連情報における周知方法の構築
- ・医療物資の一元管理
- ・新型コロナウイルス感染症院内対策マニュアル第1版作成、以降厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の改訂に合わせて改訂実施し2021年9月現在（第4版）
- ・PCR検査体制のシステム化
- ・教員、職員、学生の体調不良時の際の受診方法のシステム化
- ・一般患者受入れの際のリスク分類の明確化
- ・新型コロナウイルス感染症患者の受入れ時のシステム化と患者受入れの時の病床整備、病院衛生環境方法の統一化
- ・患者の回復に合わせた病床選択
- ・危機管理会議の開催など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第1回医薬品に関わる安全講習会 老年学における高齢者の薬物療法 ポリファーマシー 新型コロナウイルス感染症の影響で第2回は中止</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・周知、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、外来化学療法部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、放射線医薬品、院内製剤、未承認・適応外および禁忌等の使用について、医薬品関連の情報システムの利用。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>ピトレシン注射液：（産婦人科）希釈バソプレシン局所注入法による手術時の出血量の減少 アレンドロン酸：（小児科）小児のステロイド性骨粗しょう症の予防</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病棟定数薬の削減（特にハイリスク薬） 病棟定数ハイリスク薬払い出し手順に関する変更。定数から使用した際は、ハイリスク薬使用チェック表に記入する。病棟担当薬剤師は、日勤時に記入内容、用法・用量をチェックする。 時間外持参薬報告運用開始。日直帯における緊急入院患者、休日の予定入院患者に対して病棟から依頼があった際に持参薬報告を行う。 オーダリングシステムによる高カロリー輸液手技指示間違いの事例を受け、高カロリー輸液オーダー時の手技を中心静脈注射（IVH）、中心静脈精密持続注射、埋込型カテーテルによる中心静脈栄養のみとし、それ以外の用法選択が出来ないようにシステムを変更。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 19 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 当該医療機器の有効性・安全性・使用方法・保守点検・不具合時の対処方法・禁忌事項に関する項目を中心に研修を実施する。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>始業時点検：外観点検及び作動点検 使用中点検：医療機器の作動状況を確認する点検 終業時点検：機器使用後に安全性劣化や性能等の問題を発見する点検 定期点検：日常点検と異なり詳細な点検や消耗部品の交換等により機器の性能を確認すると共に次回点検までに性能の維持を確保するために行う。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDA等より院内で使用している医療機器の不具合情報を得た場合には、使用部署を確認し、回収等の処置を行う。またクラス I の回収情報を得た場合は、当院で使用しているしていないは問わず、関連部署及び病院長まで報告をする。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>病院長から任命を受けた副院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者、医療安全推進センター長、医療安全管理委員会委員長を務め、医療安全推進センターを兼務する医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電子カルテ上に「薬剤部」のページを作り、その情報を更新。 （厚労省関連情報、医薬品情報、薬剤部関連情報、PMDA 関連情報等） ○院内の各部署、診療科の代表者メールを管理し、メーリングリストを作成し配信。 ○庶務課を介し、院内の各部署、診療科へ書面を作成し配布。 ○緊急性の高い緊急安全性情報、安全性速報については情報入手後、前記 2 ルート（メール配信、書面での配布）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去3か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。 ○医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去3か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。また、薬事委員会で報告する。 ○医薬品の回収命令については、医療安全管理責任者（医療安全推進センター）を経由して病院長へ報告。 ○自主回収、製造販売中止などの情報入手時は、院内配置在庫の回収、薬剤部在庫の確認を随時実施する。 ○採用医薬品については3年毎に「医薬品集」を発行し院内医療職へ配布。その間は1年ごとに追補版を作成し配布。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○未承認新規医薬品評価委員会の開催。 ○モニタリング <p>初回（1症例目）実施時及びその後定期的（6ヶ月毎）に承認後の実施状況報告を求め、病院長に報告。</p>	

○委員会が審査を行った申請に関する審査資料の管理。

・担当者の指名の有無 (・無)

・担当者の所属・職種：

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：医師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：薬剤師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：看護師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：臨床工学技士) 1名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：事務) 4名

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月1日付けでインフォームド・コンセント責任者（以下、「責任者」という。）、各部門等にインフォームド・コンセント担当者を配置した。また、平成31年1月1日付けで責任者が委員長を務めるインフォームド・コンセント委員会（以下、「IC委員会」という。）を設置し、各診療科等が作成するインフォームド・コンセントに必要な説明書、同意書、説明用補助資料の内容が、病院が定める所定様式、又は説明に必須となる事項等の基準を満たしているかなど、一元的に審査・管理する体制を構築した。IC委員会では、承認後の説明・同意の状況について、当院が規定する手順に沿って適切な説明が行われているかの遵守状況を電子カルテ上で2ヶ月毎にモニタリングし、適切でない事例が認められた場合は当事者に対して必要な指導を行うとともに、ケースに応じて院内通知又は研修会等で取り扱うなど、周知・徹底に努めている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

①診療録等の記載内容（質的監査・量的監査）の確認を定期的に行い、診療記録管理委員会で点検結果を報告するとともに、記載内容が十分でない事例が認められた場合は、各部署に周知し改善要請を行う。

②退院サマリーの作成状況の把握と早期作成の推進。

③文書の適切なスキャニング及び当該文書の取扱状況（量）の把握。

④紙の診療録等の管理・また適切な保管スペースの確保。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（９）名、専任（０）名、兼任（６）名 うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（３）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名 うち看護師：専従（３）名、専任（０）名、兼任（０）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インシデント・アクシデント・死亡・院内急変情報の収集、分析と改善案の立案に関すること ○改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること ○医療事故防止対策マニュアルに関すること ○職員の医療安全管理に対する意識の向上や指導等に関すること ○発生した医療事故への対応に関すること ○医療安全推進のために必要な施策等の調査及び研究に関すること ○日本医療機能評価機構並びに県内の医療機関と県南健康福祉センター・厚生労働省関東信越厚生局指導監査部門。医療監視との情報交換 ○医療事故等に関する患者及び家族への対応 ○定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の状況を把握、分析し、具体的対策を推進すること ○その他医療安全管理に関すること <p>毎朝、インシデント報告分析支援システムを確認し、不備があればリスクマネージャーに差し戻し、場合によっては電話で状況を確認している。また、状況に応じて事例に関するカンファレンスにも出席して、インシデント防止に努めている。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（２２件）、及び許可件数（２２件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p>	

- 申請書の受付／申請書の不備確認
- 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
- 承認後のモニタリング
- 審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（21件）、及び許可件数（20件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 申請書の受付／申請書の不備確認
 - 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
 - 承認後のモニタリング
- 審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年676件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 10件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 《所掌業務》
 - 医療安全対策の検討及び研究に関すること
 - 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
 - 医療安全対策のための職員に対する指示に関すること

○医療安全対策のために行う提言に関すること

○医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること

○その他医療安全対策に関すること

《具体的業務》

○インシデント・アクシデント報告書及び問題（又は問題となりうる）事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。

○検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。

○医療安全対策のための教育及び研修を行う。

○医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。

○インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となることから、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り

（ （病院名：大阪医科薬科大学病院／昭和大学病院） ・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ

（ （病院名：大阪医科薬科大学病院／昭和大学病院） ・無）

・技術的助言の実施状況

【指摘事項】

なし

【質疑】

- ① 医療に係る安全管理のための職員研修のなかで、リスクマネージャーを対象とした研修については、テーマ別分科会を実施されていますが、そのテーマの内容等について教えてください。
- ② 院内の安全ラウンドについて、週1度の巡視にて項目に基づき全部署を約半年かけてラウンドするとありますが、通常では何名で実施しているのか教えてください。
- ③ 合併症については、医療行為に際して一定の確率で発生する医療関連有事象と定められておられますが、合併症の報告基準を教えてください。
- ④ 医療事故調査・支援センターへの報告については、適切な判断の為に症例検討会を実施されていますが、症例の選択基準や実施頻度、出席者について教えてください。
- ⑤ 患者向けの講習会はどのように行われているか教えてください。

- ⑥ メーカー立会いの際に「立合い実施確認書」を交わしておられますが、件数から勘案すると1症例（毎症例）ごとに確認書を作成ということでしょうか？また、どのような症例が対象となっているのか教えてください。
- ⑦ 放射線診療を受ける患者に対する説明と同意について、「①いる、②同意書」とありますが、同意書の媒体は何を利用されているのでしょうか。また、その保存方法はどのようにしているのでしょうか。
- ⑧ 高難度新規医療技術の導入について、下記について教えてください。
- ・未承認事案に関して許可後、どのくらいの期間後追い調査を実施していますか。
 - ・後追い調査は誰が、どの様に実施していますか。また、その内容について教えてください。
- ⑨ 未申請で使用された未承認新規医薬品等を把握する仕組みを具体的に教えてください。
- ⑩ 画像診断結果見落とし有無の確認のためのシステム対応について、「8. 該当患者に報告書の内容がICされたか確認」とありますが、どのように確認されておりますでしょうか。
- ⑪ ヒヤリハットレポートについてはどのようにデータ利用されておられますか。
- ⑫ 不眠時・不穏時の適正薬剤の使用とありますが適正薬剤の使用を判断するためのモニタリングの指標はどのように設定しておられますか。
- ⑬ 研修後の学習効果の判定のため、e-ラーニングを使用されていますが、具体的なシステムや方法を教えてください。
- ⑭ 医療安全に関する情報の周知徹底について、工夫されていますが、具体的な問題点はありませんか。
- ⑮ セーフティマネージャーの組織体制と小委員会の活動について具体的に教えてください。
- ⑯ 死亡事例は24時間以内に報告システムで安全部門に報告するとなっておりますが、周知されて実行されているのか、または報告が漏れる場合はないのでしょうか教えてください。
- ⑰ 「各部署別鎮静剤使用ガイドライン」の作成には医療安全部門が介入しておられますか。例えば、部署が定めた手順が適応外使用に当たるような例の場合、どのように対応しておられますか。
- ⑱ 副作用・アレルギー歴をエラー登録する判断基準、登録後の解除基準や権限などどの

ように設定しておられますか。

- ⑱ 高難度新規医療技術提供において、適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかの遵守状況の確認について、モニタリングの件数・期間、高難度新規医療技術としての取扱い終了等をどのように決定していますか。
- ⑳ 急変事例対応において院内ルールに沿って細部のルールを検討となっておりますが、具体的にはどのような内容でしょうか教えてください。

【応答】

- ① eラーニングで Team STEPPS 研修を実施しており、1コマ15分以内で14コマ作成しています。テーマについては別紙参照ください。9月からはテーマを変えて「心理的安全性の高い組織が 良いチームをつくる」でeラーニングを実施しています。
- ② 病院長・副院長4名のうち1名、衛生管理者1名、看護部長もしくは看護次長、薬剤部長、医療安全管理者3名、感染管理者1名、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、事務部長、管理課1名、クオリティマネジメント課1名、施設課1名となります。
- ③ 医療行為に際して一定の確率で発生する医療関連有害事象としておりますので全て合併症事象が対象になり報告してもらうこととなります。しかし、高頻度・高確率で発生しその有害事象の程度が小さければ報告されることはないというのが現実であり、有害事象程度が大きければ報告対象になっていると思います。
- ④ 症例の選択基準は「患者死亡時チェックシート」で予期しないにチェックされたもの、医療安全管理者等が「予期」と「医療起因性」を確認し、疑義が生じたものなどが対象となります。昨年度は6回実施し、出席者は医療安全管理部門・関係診療科・部署となります。
- ⑤ 当院では、患者向け教室として「おくすり減らすゾウ教室」を実施しています (<https://www.showa-u.ac.jp/SUH/department/support/pharmacy/poly.html>)。以前は対面式(病院食堂等を利用)でしたが現在はコロナ対応にてWEBでの対面で開催しています。コロナ前は毎月第3月曜日、16時より約30分程度、コロナ対応中は、患者より参加の要望があった場合のみ同様に月に1回開催となります。(コロナ前は平均で5名程度の参加がありました。)申し込みはネット(コロナ前は電話や直接参加でも可)にて行っています。院内電子掲示板(外来待合室等に設置)および病院ホームページにて案内を流しております。講習会のほかに個別相談も受け付けており、同様にホームページにて案内しています。直接患者より電話があり対応するほか、メー

ル等でやり取りをする場合もあります。

- ⑥ 公正競争規約での立会いに関する基準内での立会いになります。
- ⑦ 患者に渡している同意書は、電子カルテからプリントアウトしますので、一旦、紙になります。患者から署名をもらった同意書はスキャナで電子カルテに取り込み、電子保存されます。
- ⑧ 実施後は診療科からモニタリング報告書の提出を必須としています。その提出は最低2回、導入時、退院時を原則としています。継続中の案件については安全管理部門で確認しています。
- ⑨ 特別な仕組みはございませんが、病棟薬剤師が全病棟に配置されておりますので、未承認薬等知らぬうちに使用されている例はまずありません。1(.12).1)の技術的な助言が欲しい事項でも記載しましたが、未承認を含む適応外使用や禁忌使用について病棟薬剤師や調剤時における処方監査などによりある程度は捕捉できるものの、それでも申請されず使用されている事例はあると思っています。受動的でなく能動的に察知できる仕組みを検討中です。Web面談のときに双方で話し合えればと考えています。申し訳ございません。
- ⑩ 医療安全管理者が診療録のIC記録を確認します。それら運用については、「CT・MRI・病理レポートに関する見落とし等の安全対策マニュアル」を参照ください。
- ⑪ 急変検証において院内ルールとの相違をカンファレンスしています。患者影響レベルの低いヒヤリハットについては収集後の活用検討中です。事例検討や分析の学習事例に使用しています。
- ⑫ 不眠時・不穏時、使用推奨薬剤を選定しマニュアルへ掲載していますので、それ以外の使用の有無を確認しています。せん妄の判断には日本語版CAM(The Confusion assessment method)を使用しております。
- ⑬ Safety plusを使用しています。Web視聴後に確認テストを行います。2～5問程度、出題され100点満点で合格となり、研修出席とカウントされます。
- ⑭ 院内周知文書・広報誌・管理委員会での報告に関して周知印にて確認を行っています。セイフティマネージャー委員会(1回/2M)時に確認しますが、提出のない部署に提出依頼を行い、不備のある場合の再提出の依頼を行っています。また、押印されていても「知らなかった。」等の意見があります。
- ⑮ 小委員会は1回/2か月開催しております。2月に活動報告会を医療安全講習会として開催いたします。小委員会①心電図モニター:緊急入院や全麻手術後の装着確認

②せん妄：CAM 評価・推奨薬剤の使用の促進③安全医療器材の使用：針刺し防止機能付き器材の浸透④転倒転落：「離床キャッチ」の使用推進とフローの作成⑤ポリファーマシー：入院患者を対象にした取り組み⑥院内ラウンド：5S, 災害対策を強化となります。

⑯ 報告が漏れてしまうこともありますが、毎日、死亡事例を病院日誌で確認し漏れのないようにしています。次年度からは報告システムではなく、退院オーダー入力の必須項目として追加いたします。

⑰ 医療安全が主体となり WG を作成しました。インシデント報告としてある場合はガイドラインの見直しを行い、周知徹底します。

⑱ アレルギーの記載内容は偽陽性、軽症例を含めて登録しており、即座に禁忌薬となるものではないと考えています。主治医判断のもと、各患者ごとに説明、同意を得て対応しています。間違った登録の判断や修正の基準はありません。

⑲ 半年に一度、各部署へ実施記録の提出を求め、医療安全管理者により内容のチェックを行います。実施件数が 10 件に達するか、承認より 3 年経過した時点で、高難度新規医療技術評価委員会（審査委員会）にてモニタリングの終了が妥当かどうか判断いたします。

⑳ 急変検証において院内ルールとの相違をカンファレンスしています。部署でのローカルルールにならないよう PARM 評価を用います。またルールの追加は院内ルールの詳細として追加します。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院 1 階の地域連携・患者サポートセンター医療福祉相談部門内に“患者相談窓口”を設置し、専従の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記「規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」内「③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修

の実施状況

・研修の実施状況

- 研修会名；2021年度特定機能病院管理者研修事業
- 研修日程；2021年12月23日（木）
- 受講者；管理者（病院長）、医療放射線安全管理責任者
- 研修日程；2022年1月19日（水）
- 受講者；医療機器安全管理責任者
- 研修日程；2021年11月22日（月）
- 受講者；医薬品安全管理責任者

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構

訪問審査受審（一般病院3）：平成30年9月20日（木）～22日（土）の3日間

認定期間：2018年11月17日～2023年11月16日（認定JC71-4号）

※次回2023年8月受審予定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

学外には公表していないが、学内には公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

是正すべき項目については、院内で検討し、改善策を講じ、再審査を受けている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <p>臨床医学の講座主任教授</p> <p>医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</p> <p>病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法 <p>規程集に掲載している。</p> </p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法 https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/advanced-treatment/ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
吉田謙一郎	学長	○	学長 (規程第7条第1号)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
平田幸一	副学長		副学長 (規程第7条第2号)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
窪田敬一	大学病院長		大学病院長 (規程第7条第3号)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
奥田泰久	埼玉医療センター 病院長		埼玉医療センター病院長 (規程第 7条第4号)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
安 隆則	日光医療センター 病院長		日光医療センター病院長 (規程第 7条第5号)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
若松昭豊	事務局長		事務局長 (規程第7条第6号)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
稲野秀孝	栃木県医師会長		学長が委嘱する学外有識者 (規程 第7条第8号)	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
仲山信之	栃木県保健福祉部 長		学長が委嘱する学外有識者 (規程 第7条第8号)	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関する重要事項を審議するため、病院運営委員会を設置し、以下の事項を審議している。</p> <p>(1) 病院の経営に関する事項 (2) 病院の運営に関する事項 (3) 病院の将来計画に関する事項 (4) 病院の診療体制に関する事項 (5) その他診療に関する事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 毎月、診療部長会・病院連絡会を開催し、概要を報告している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・無)</p> <p>・公表の方法 規程集に掲載している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・無)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉田 謙一郎		医師	学長
平田 幸一		医師	副学長
坂本 悦男		事務	事務局長
麻生 好正	○	医師	病院長
釜井 隆男		医師	副院長
吉原 重美		医師	副院長
福田 寛嗣		医師	副院長
入澤 篤志		医師	副院長
臼井 悟		薬剤	薬剤部長
小松 富恵		看護	看護部長
伊藤 公三		事務	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法

規程集に記載している。

- ・ 規程の主な内容

獨協医科大学病院規程第2条第3項：病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：医療安全推進、院内感染防止対策、医療物資管理、経営対策

院長補佐：研修医対応、病床管理

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理職研修会を毎年開催し、本学の方針に則った共通認識のもと人材育成を図っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>大学病院内における医療安全管理業務の執行状況を監査している。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・公表の方法：</p> <p>ホームページにより公開（https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/audit/）</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
野間 重孝	済生会宇都宮病院 病院院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 専務取締役		医療を受ける者の代表者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	その他
久保田 一徳	獨協医科大学病院 放射線部教授		医療に関する学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	その他

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学園内部監査室による監査の他、定期的な監事監査を実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法

規程集に掲載している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p style="margin-left: 20px;">理事会にて管理運営状況を監督している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（年 7 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 7 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 <p style="margin-left: 20px;">規程集に掲載している。</p>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)
・ 通報件数 (年 0 件)
・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)
・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)
・ 周知の方法 医療事故防止対策マニュアルに収載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☑・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>栃木県保健医療計画 (7期計画) 【中間見直し】に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主に地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やHP、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☑・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院 3 診療科 (心臓・血管内科/循環器内科、腎臓・高血圧内科、心臓・血管外科) の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年ではスポーツ医学センター・リプロダクションセンターを設置するなど、中央部門に 25センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者さまにより分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでいる。</p>	